

7 旭地区の植物

(1) 旭地区の概要

旭地区は、水の郷・百選に指定されており、矢作ダムに代表される水の豊富な地域である。しかし山地が多く、東部が高く西部が低い地形で、標高的には、稲武地区近くの牛地町の駒山が標高 855m の最高標高地であり、西武の池島町矢作川河原が海拔 100m の最低標高地である。小原地区や岐阜県側に連なっていた三河高原を矢作川が深く浸食したことから高低差が生じたものである。名のある山地は駒山、大洞峠(867m)、足助地区境の東萩平町にある茶臼山(418m)である。気候温暖で降水量の多さから矢作川沿いの山地の急斜面や東部の駒山山麓、伊勢神峠からの北斜面一帯の山塊は広大で優れた人工林になっている。

その中で特筆すべきは駒山の山頂や斜面の一部にブナ、イヌブナ、サワシバ、ミズメ、ヤマハンノキ、カラコギカエデ、コミネカエデがあり斜面にはカツラ、トチノキ、イヌシデなどが生えている。下草としてミヤマエンレイソウ、

バイケイソウ等がまれに生えていることから温帯林である要素が多い。伊熊神社はモミ、ユズリハ、コアサダ、イイギリ、カシの類等が生え、暖帯林としての天然状況が保存されている。

大きい河川は矢作川で、稲武地区から旭ダムの奥矢作湖に入り、浅野地区と小渡地区を割って西流する。矢作川支流はほとんどが区内を北流しており、段戸川は小田木川や田津原川を合流し黒谷溪谷をつくりダム湖へ、介木川は惣田町から流れ、旭地区を 2 分するように小渡町の市街地へ流れる。阿摺川はそれらの川と違い足助地区の伊勢神峠を源流として西流する。浅野集落地の河川は南流する。このように小河川は山間溪谷を作りながら流れている。これらの地域は暖帯の植生で、カシ類が主体で高木層を独占し、亜高木層にはシロダモ、ヤブニッケイ、ヤブツバキが生え、低木層にはアオキ、アセビ、シキミ等が普通である。

愛知高原国定公園が東海自然歩道の恵那コース上や駒山を含んだ奥矢作湖や矢作川沿い、茶臼山から矢作川にかけて指定されている。また伊熊町の伊熊神社社叢林は県自然環境保全地域に指定されているし、群落レッドデータブックの群落複合には保護対策ランク 2 (破壊の危惧) に位置する。(ランクは 4 段階、「ランク 4: 緊急に対策が必要」)、それに単一群落では、八幡社のアカガシ林がランク 3 である。ほかにランク 2 の場所もある。

旭高原は元気村をはじめ、県青少年自然の家があり、観光地として賑わっている。旭地区の北部には旭ゴルフ場、西南部の東萩平町には笹戸ゴルフ場が占めている。旭地区の面積は 82.16 km² で、東西 15.6km、南北 10.1km である。

(2) 森林植生

区内には植林地が多く、自然林は減少している。その中の自然林で平地や傾斜地、更に方位的な代表地と思われる場所を選定し、植物社会学的調査を行い各群落断面模式図とその平面図、群落組成表を作った。調査の方法については第 2 項植物調査 (P. 78) による。



写真 V-253 笹戸町の矢作川



写真 V-254 奥矢作ダムの旭大橋

旭 7-6256
 海拔 205m
 方位 N90°E
 傾斜 33°

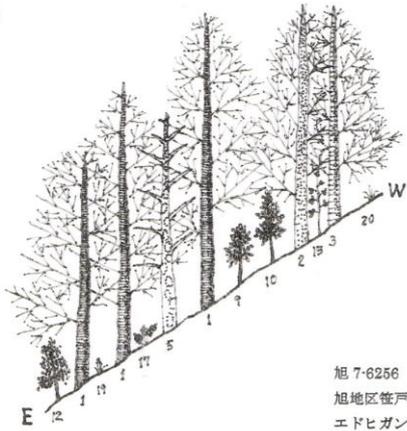


図 V-36 笹戸町 断面模式図

写真 V-255 笹戸町
 旭 7-6256 のコドラート

ク コナラ・アラカシ群落

旭 8-6246 市平町, 北 18 度西の 28 度斜面, 海拔 265m 植物種数 17 種.

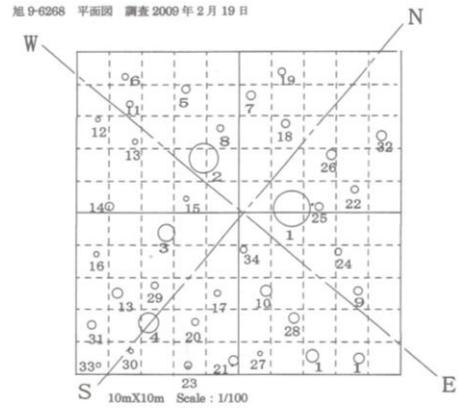
県道 11 号線が笹戸町へ渡った所から県道 490 号線に入り, 約 3km 南の市平町, 南向きの斜面.
 ケ サイカチ・カヤ群落

旭 9-6268 小渡町小柳, 南 40 度西の 33 度斜面, 海拔 163m 植物種数 34 種.

No.	旭 9-6268	凡例名 (群集名)	サイカチ・カヤ群落	地点 16.7m	
調査地	徳島県 徳島市 旭地区 小渡町 小柳	(標高) 163m			
(地形) 山 頂 麓 谷 間 谷 上 中 下 谷 谷 谷	平地	(風向) 強 中 - 弱		(方位) S40° W	
(土質) 砂 質 - 粘 土 質 - 粘 土 質	アソビ - ヲシロイ - 粘 土 質	(土質) 粘 土 質		(傾斜) 33°	
調査 時期	2009 年 2 月 19 日	(調査) 10m x 10m x 100m		(調査) 34	
調査 者	山田 弘 渡辺 仁 吉 渡辺 隆 代 野合 勝 枝	(調査) 34		(調査) 34	
T ₁ 高 木 層	サイカチ	6 ~ 20	80	120	1
T ₂ 中 木 層	ヤブツバキ	2 ~ 6	80	8	
S 低 木 層	シロダモ	0.5 ~ 2	2		
H 草 本 層	アオキ	0.1 ~ 0.5	1		
M コケ 層					

D-S	V	SPP.	D	D-S	V	SPP.	D-S	V	SPP.
T ₁	4-4	サイカチ	M	1-1	シロダモ				
	4-4	カヤ		1-1	アオキ				
	1-1	イロハモミジ		2-2	テイカカズラ				
	1-1	ヤブツバキ		+	オオバノイノモトソウ				
	++	イタビカズラ		+	ヤブソテツ				
				+	フモトシダ				
				+	ヤマヤブソテツ				
				++	メダケ				
				+	ヤエムグラ				
				+	センニンソウ				
T ₂	2-2	ヤブツバキ		+	サネカズラ				
	+	シロダモ		+	ダイコンソウ				
	+	シラカシ		+	トラノオシダ				
	1-1	サイカチ		+	マンリョウ				
	++	マメヅタ		+	ハコベ				
				+	キツタ				
				+	ノキシノブ				
				+	ヒゲシバ				
				+	チヂミバナ				
				+	ジシバリ				
S	+	アオキ		+	ヤブツバキ				
	++	サイカチ		+	ジャハダ				
	1-1	シロダモ		+	ナンテン				
	1-1	ウツギ		+	ベニシダ				
				+	オモト				
				+	アケビ				

図 V-37 小渡町 植生調査表



- | | | |
|---------------|------------|-----------|
| 1 サイカチ | 13 ヤブソテツ | 25 ノキシノブ |
| 2 カヤ | 14 フモトシダ | 26 ヒガンバナ |
| 3 イロハモミジ | 15 ヤマヤブソテツ | 27 タネツケバナ |
| 4 ヤブツバキ | 16 メダケ | 28 ジシバリ |
| 5 イタビカズラ | 17 ヤエムグラ | 29 ヤブツバキ |
| 6 シロダモ | 18 センニンソウ | 30 ジャノヒゲ |
| 7 シラカシ | 19 サネカズラ | 31 ナンテン |
| 8 マメヅタ | 20 ダイコンソウ | 32 ベニシダ |
| 9 アオキ | 21 トラノオシダ | 33 オモト |
| 10 ウツギ | 22 マンリョウ | 34 アケビ |
| 11 テイカカズラ | 23 ハコベ | |
| 12 オオバノイノモトソウ | 24 キツタ | |

小渡町小柳 サイカチ・カヤ群落
 南 40 度西の南 40 度西の南西向き 33 度傾斜の斜面. 海拔 163m. 植物種数 34 種.
 小渡支所の南, 約 1.5km の県道 11 号線から矢作川へ下りた河原の河畔林.

図 V-38 小渡町 植生投影図

旭 9-6268
海拔 163m
方位 S40°W
傾斜 33°

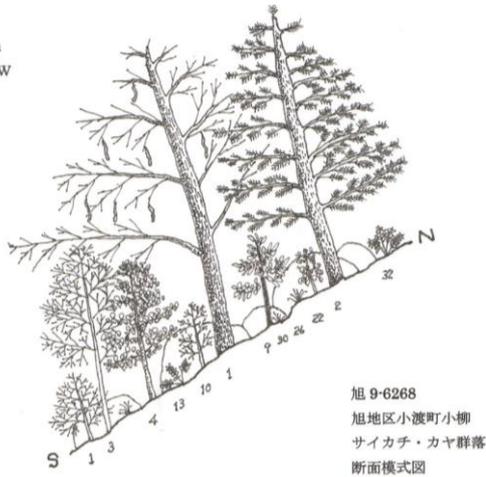


図 V-39 小渡町 断面模式図

写真 V-256 小渡町
旭 7-6268 のコドラート

コ アベマキ・コナラ群落

旭 10-6299 浅谷町, 北東の 38 度斜面, 海拔 300m 植物種数 40 種.

県道 20 号線の旭出張所から北へ 1.5km の所で, 約 20m 登った山の斜面.

サ アカマツ・コナラ群落

旭 11-7208 一色町, 北 30 度西の 45 度斜面, 海拔 320m 植物種数 35 種.

県道 20 号線岐阜県との境, 旭カントリーの西, 県道 20 号線から分かれて 75m の北側の斜面.

シ アカマツ・アベマキ群落

旭 12-6297 上切町, 北 45 西の 32 度斜面, 海拔 465m 植物種数 31 種.

県道 19 号線の神明社から北へ向かう道路の北約 50m 地点の南向き斜面.

ス コナラ・エゴノキ群落

旭 13-6311 惣田町, 北 90 西の 43 度斜面, 海拔 475m 植物種数 46 種.

国道 153 号線明川郵便局の信号から北へ約 150m 入った惣田町の最南端, 県道 366 号線の西側.

セ アベマキ・ヤマザクラ群落

旭 14-6333 日下部町, 南 35 度東の 35 度斜面, 海拔 545m 植物種数 24 種.

県道 490 号線寺辻の急カーブから約 50m 東の地点, 北向きの斜面.

ソ アカマツ・スギ群落

旭 15-6330 押井町, 北 30 度西の 20 度斜面, 海拔 480m 植物種数 22 種.

県道 19 号線から県道 490 号線を東に向かい二つ目の交差点を北に 30m 行った右側の斜面.

タ アカマツ・タカノツメ群落

旭 16-6340 太田町, 南 20 度東の 28 度斜面, 海拔 460m 植物種数 30 種.

伊熊神社の裏山.

チ アカマツ・ソヨゴ群落

旭 17-6352 余平町, 北 15 度西の 13 度斜面, 海拔 440m 植物種数 21 種.

国道 366 号線の八幡神社の前から旭高原元気村への道, 国道から約 150m の大きくカーブした場所から斜面を登った地点.

ツ アベマキ・ヒノキ群落

旭 18-6361 万町町, 北 60 度西の 20 度斜面, 海拔 380m 植物種数 22 種.

この中旭 7-6256, 旭 9-6268, 旭 19-6367 の 3 か所の全部を表記した。

旭地区は地味がよく気候温暖で降水量も多く、昔から林業が盛んでスギ、ヒノキが植えられている。植生調査をする自然林を探すのに苦労した。その中で地域全体の 20 か所を調査した。その全てを表記するには過大のため、3 か所を表記した。

キ エドヒガン・コナラ群落 旭 7-6256

ケ サイカチ・カヤ群落 旭 9-6268

テ ヤマザクラ・ミヤコザサ群落 旭 19-6367

(3) 旭地区各地の植物の詳細

ア 駒山

駒山は標高 855m で地区内で最も海拔の高い所である。ここには小馬寺（しょうばじ）があった。本堂、庫裏があって少し山を下りた所に立派な門もあった。しかし現在はいずれも朽ち果て、倒壊している。わずかに壊れかかった庫裏と山門を残すだけである。円通山小馬寺は古くは天台宗の山岳寺院だったが、延宝年間（1673 年頃）臨済宗に替り、南朝伝説と馬の信仰で知られた寺であった。盛期には京都から僧が来ていたと言う。この寺には大きな千匹大絵馬があり、縦 1.8m 横 3.9m に遠景に山を描き、手前に根上がり松と満開の桜の大木、大草原に 650 頭ほどの馬の群れが描かれている。現在は別の所に保管されている。東濃地方を含め、この地方が馬の山地として繁栄していたようである。

「頂上にはスギの大木が立ち並びその中にブナ、イヌブナ、フモトミズナラ、コミネカエデ等が鬱蒼とした森を作っていた。」と記録にはあるが、現在はスギの大木（胸高囲 6m）は切られて切り株に雨覆いが建てられている。その他の大木スギは見られない。頂上付近にはモウソウチクが侵入している。現在タケは切られかなり処分されている。庫裏の庭跡にミヤコアオイが生えている。これは京都の僧が寺僧として派遣された時持ち込んだものとも言われている。山頂までの道路脇に生えていたので、庫裏の庭を探して見つけた。道路のものは車に轆かれ危ない状態である。

この山は単独の山であるが温帯性植物の多い山である。山頂にはこのほかヤマザクラの大木、ウリハダカエデ、ウワミズザクラ、アサノハカエデ、カラコギカエデ、ツガ、モミ、クマノミズキ、ミヤマハハソ、イイギリ等があり、イチイの大木は昔に植えられたものであろう。

奥矢作湖の湖畔にある旧発電所跡近くの沢沿いに登山道があり、電力の鉄塔や電線のメンテナンスの人たちが登る道がある。この道は小馬寺への僧侶の登る道であり、寺への生活物資の運搬路でもあったようである。今回この道路を登り、頂上までの道をたどった。長年の放置で草木が茂り、切り開きながらの登攀であった。カシワバハグマ、マルバワタムキアザミ、オタカラコウ、



写真 V-258 牛地町対岸から見た駒山



写真 V-259 駒山頂上のブナの大木



写真 V-260 寺の庫裏のミヤコアオイ

バアソブ、ヒメチドメ、オオカモメヅル、ヒメアシボソ、シンミズヒキ、ハエドクソウ、シソバ
 タツナミ、キジノオシダ等が見られ、樹木ではカツラ、アカメガシワ、ウツギ、タマアジサイ、
 ムラサキシキブ、アオキ、ヤマアジサイ等があり、特に細くて背丈ほどの樹高のカツラが沢山あ
 った。

記録にあるヒメシャガ、ヤマシャクヤク、ギンバイソウ等は今回見られなかった。

イ 牛地町

奥矢作湖の左岸で駒山の麓でもあり、幾つかの谷があっ
 て溪流になっている。特に目立つ樹木はないがミツバツツ
 ジ、イヌザンショウ、ケケンポナシ、ミズキ、アカメガシ
 ワ、アラカシ、シラカシ、ケヤキ、イイギリ、ヤマグワ、
 スルデ等がある。トウカエデ、ナンテン、シンジュ等の逸
 出種があり、外来種としてオニウシノケグサ、セイタカア
 ワダチソウ、オッタチカタバミ、ヒメジョオン、アレチギ
 シギシ、アレチヌスビトハギ、オオアレチノギク、ヒメム
 カシヨモギ、シロツメクサ、ニワゼキショウ、オノマンネングサ、メマツヨイグサ等があった。
 それでも町中に比べると随分少ない。シダ類はクマワラビ、テリハヤブソテツ、ヤブソテツ、オ
 オベニシダ、ヒメイタチシダ、ヤマイタチシダ、イヌワラビ、イヌシダ、ノキシノブ、ミヤマノ
 キシノブ、ゼンマイ、ミサキカグマ、ゲジゲジシダ等があったがやや少ない。



写真V-261 段戸川 黒谷溪谷

ウ 田津原町

稲武地区との境で駒山と旭高原元気村に挟まれた山深
 い地で、真ん中を段戸川が流れ北部で奥矢作湖に流れ込ん
 でいる。したがって地域内でも植物種の多い地区であるは
 ずだが、ほとんどが植林されたスギ・ヒノキの人工林で、
 その中に川筋の田畑と人家の周辺、わずかに残った自然林
 だけである。

高木層：カヤ、モミ、カツラ、ウワミズザクラ、ケヤキ、
 トチノキ、ミズキ、ヤマザクラ、イイギリ、ツノハシバミ、

タムシバ、アカシデ、アベマキ、シラカシ、カスミザクラ、エドヒガン、ヤマグワ、オニグルミ。
 中木層：マンサク、アカメガシワ、キブシ、ウツギ、ハナイカダ、サンショウ、ニワトコ、ヤマ
 アジサイ、コゴメウツギ、ノリウツギ、アオハダ、ヤマアサクラザンショウ、ヒメコウゾ、ムク
 ロジ等。

低木層：タマアジサイ、ヤブデマリ、ヤマアジサイ、ヤブコウジ、ムラサキシキブ。

つる植物：ヘクソカズラ、ノダフジ、アオツヅラフジ、アケビ、ツタ、バアソブ、ツルマメ、ミ
 ツバアケビ、ノブドウ、ツタウルシ、サルトリイバラ、ツルマサキ、アマチャヅル、ヤマノイモ、
 カナムグラ、マタタビ、キヅタ、オオカモメヅル、クズ。

シダ類：トラノオシダ、ミヤマノキシノブ、クマワラビ、ワラビ、クジャクシダ、イヌワラビ、
 ヤブソテツ、ヤマヤブソテツ、ツヤナシイノデ、キヨタキシダ、ヒメワラビ、コウヤワラビ、ゼ
 ンマイ、イワガネソウ、イワガネゼンマイ、ミゾシダ、ハクモウイノデ、リョウメンシダ、サイ



写真V-262 岩の隙間に生えるサツキ

ゴクイノデ、ホソバナナライシダ、ウスヒメワラビ、ヤシャゼンマイ、ヤマドリゼンマイ。

外来種：シロツメクサ、ヒメジョオン、ヒロハギシギシ、オニウシノケグサ、メマツヨイグサ。

エ 小滝野町

矢作第一ダムの左岸の道路沿いは山裾を削って道路を造ったので山側はすべて崖である。所々に谷があつて水の滴る所から溪流になっている所もある。これらの谷と道路沿いを調査した。非常に植物種の多い所である。

高木層：ヤマグワ、アカメガシワ、ヤマザクラ、コナラ、シラカシ、カスミザクラ、クリ、アカシデ、カラスザンショウ、クサギ、ケヤキ、サワシバ、ネムノキ、ホオノキ、イイギリ、ウルシ、ウワミズザクラ、エゾエノキ、エドヒガン、エノキ、シンジュ、ミズキ、スギ等。

低木層：ウツギ、アオキ、チャノキ、ダンコウバイ、ツリバナ、ムラサキシキブ、エビガライチゴ、ヌルデ、ヤマブキ、キハギ、ミツバツツジ、シロモジ、ヒサカキ、アセビ、アブラチャン、ヤマツツジ、ネジキ、コアジサイ、ナガバナモミジイチゴ、ヤブウツギ、ウリカエデ、ヤマウルシ、ナンテン、カクミノスノキ、コックバネウツギ、タンナサワフタギ、リョウブ、クサギ、イヌザンショウ、バイカウツギ、ヒメウツギ、コゴメウツギ、タマアジサイ、ハナイカダ、コバノガマズミ、ヤマアサクラザンショウ、ガマズミ、シラキ、ノリウツギ、ニワトコ等。

外来種：ヒメジョオン、オオイヌノフグリ、アレチヌスビトハギ、ヒロハウシノケグサ、オランダミナグサ、オオニシキソウ、アメリカセンダングサ、セイタカアワダチソウ、シナダレスズメガヤ、オニウシノケグサ、ヨウシュヤマゴボウ、カモガヤ、ネズミムギ、ハルジオン、オニノゲン、シロツメクサ、オオキンケイギク、オオブタクサ等。道路沿いでダム造りの工事に車両の出入りが激しく、外来種の種子もタイヤについて来たと思われる。

シダ類：ヤブソテツ、コバノヒノキシダ、テリハヤブソテツ、イヌワラビ、ミヤマノキシノブ、クマワラビ、イノモトソウ、ワラビ、シシガシラ、ゼンマイ、イヌシダ、ハリガネワラビ、ゲジゲジシダ、ヤマイタチシダ、ミツデウラボシ、オオベニシダ、オオイタチシダ、オクマワラビ、クジャクシダ、ヒメワラビ、ヤマヤブソテツ、リョウメンシダ、イヌガンソク、イワガネゼンマイ、トラノオシダ、ノキシノブ、オヒメワラビ、ジュウモンジシダ、ヒロハイヌワラビ、ヤマイヌワラビ、キヨタキシダ、イノデ等。シダ類の多い場所である。

オ 旭八幡町

段戸川が流れ込む矢作ダムの大きな谷が旭大橋から南へ伸びている。この谷の奥で旭八幡から流れ落ちている溪流がある。かなり奥深い林道で奥まで舗装されている。この山は花崗岩が風化した土で崩れやすく傾斜がきつく45度以上ある。ここでサクライソウが発見できた。

八幡神社の境内は「八幡のサクライソウ及びツクバネ自生地」として1954年に県指定天然物になった。この山には何度も通ってサクライソウを探した。ところが2013年に神社まで行くと、何と杉の大木が切られ、ツクバネも切り払われて奥の院まで丸坊主になり、新しい社の建設中であつた。杉の大木を売って新しい社を立てるとのことであつた。さっそく愛知県と豊田市の文化財課に連絡したところ、すぐに来られて、残ったツクバネを保護するため、仮にロープを張って立札を立てられた。山全体が乾燥した状態でサクライソウの生える様な雰囲気ではなくなっている。ここにはサクライカグマもあつたが見られなくなった。八幡神社は単独の山で10,000m²にも及ぶ社叢である。スギ、ヒノキを主体とする森で、神社のため長い間人の手が入らない、自然に

保護された社叢のため、ツクバネやサクライソウが生育していた。この植物はともにスギの根に半寄生する植物で、環境の変化によって絶滅しやすい植物であり、まことに残念なことである。



写真 V-263 サクライソウの谷，入り口



写真 V-264 サクライソウ



写真 V-265 建設中の社，2013 年当時



写真 V-266 奥の院まで丸裸

カ 旭高原自然活用村（旭高原元気村）

愛知高原国定公園に指定されていて、キャンプ施設，八幡牧場等の施設があり，きちんと整備された自然環境の公園である。当然植物種も豊富であり，高原の湿地もあって湿地植物も多い。バイケイソウ，ニリンソウ，サギソウ，トキシソウ，カキラン，スイラン，ミカヅキグサ，イヌノヒゲ，ニッポンイヌノヒゲ，イトイヌノヒゲ，ミミカキグサ，ホザキノミミカキグサ，ヌマガヤ，モウセンゴケ，アギスマレ，ノアザミ，オオミズゴケ，ショウジョウバカマ等が目立つ。

キャンプ場の西下流部には湿地があり，ハナノキの大木があつて木道が整備されている。ハナノキは今までカエデ科であつたが，新分類法でムクロジ科カエデ属になった。ちなみにトチノキもトチノキ科からムクロジ科トチノキ属になった。

元気村から北への道を下ると赤沢川溪谷の岸にカツラの大木がある。旧旭町時代，名木指定された第1号で1本1本はあまり太くなく，170cm から 300cm で樹高は 13m，1989 年に指定されている。ここから県道 356 号線までの植生。

高木層：アカシデ，アカメガシワ，アラカシ，イイギリ，イタヤカエデ，イロハモミジ，エドヒガン，エノキ，エンコウカエデ，オニグルミ，カツラ，カナクギノキ，ケケンポナシ，ケヤキ，コウヨウザン，コナラ，コハウチワカエデ，シラカシ，スギ，ナツツバキ，フサザクラ，マルバアオダモ，マルバノホロシ，ヤマグワ等。

低木層：アブラチャン，イボタノキ，ウツギ，ウリノキ，ガマズミ，クサギ，クロモジ，コアジ



写真 V-267 ハナノキ



写真 V-268 赤沢のカツラ

サイ、コクサギ、コゴメウツギ、ゴンズイ、ダンコウバイ、ツリバナ、バイカウツギ、ハナイカダ、ヒメウツギ、ヤブウツギ、ヤブツバキ、ヤマコウバシ、ヤマブキ等。

道路沿いにサルスベリ、ヒメシャラ、イロハモミジが植えられている。イイギリの大木があり雌の木なので秋はきれいな赤い実がなると思う。オオツツラフジの群落があり、木々からみまんと状になっている。コウヨウザンがスギの植林に混じり大木になり、種子から生えた幼木がたくさん育っている。

キ 浅谷町

矢作川の右岸の調査ができる場所は、浅谷町、下切町、島崎町だけである。県道 20 号線の途中に郷土資料館がある。この辺りは田が多いが用水が湧水で水温が低く生産性が劣ると言われている。そのかわり自然の湿地が多く、水生植物が見られる。

草本層：アオカラムシ、アカソ、アカネ、アキカラマツ、アキチョウジ、アキノタムラソウ、イヌハギ、イノコヅチ、ウシハコベ、オオバコ、オトギリソウ、オヤブジラミ、オヤマボクチ、カスマグサ、カニツリグサ、カモジグサ、カラスビシャク、キジムシロ、キツネノボタン、キュウリグサ、ウマノアシガタ、クサイチゴ、ゲンノショウコ、コウゾリナ、コケイラン、コナスビ、コボタンヅル、コマツカサススキ、コモチマンネングサ、シカクイ、シラヤマギク、スイバ、ススキ、スズムシソウ、スズメノヤリ、タケニグサ、タチイヌノフグリ、タチシオデ、タムラソウ、ツボスミレ、ツリガネニンジン、トウバナ、ドクダミ、トボシガラ、ナガハグサ、ナワシロイチゴ、ニガナ、ヌスビトハギ、ヌルデ、ネコハギ、ノガリヤス、ノカンゾウ、ノコギリソウ、ノコンギク、ノタヌキモ、ノブドウ、ヒガンバナ、ヒキオコシ、ヒナタイノコヅチ、ヒメウス、ヒヨドリバナ、ホソバシュロソウ、ホタルブクロ、ボタンヅル、マスクサ、ミゾイチゴツナギ、ムラサキサギゴケ、ヤエムグラ、ヤハズエンドウ、ヤブジラミ、ヤブタバコ、ヤマゴボウ、ヤマノイモ、ヤマハタザオ、ユウスゲ、ユキノシタ、ヨツバハギ、ヨモギ、ワレモコウ。

外来種：ヒメジョオン、オニウシノケグサ、ヨウシュヤマゴボウ、セイタカアワダチソウ、シロツメクサ、マメグンバイナズナ、アメリカイヌホオズキ、オオイヌノフグリ、カモガヤ、シナダレスズメガヤ、アレチヌスビトハギ、ハルノノゲシ、タチイヌノフグリ、ナギナタガヤ、チチコグサモドキ、ハルガヤ、メマツヨイグサ、イモカタバミ、ツルニチニチソウ、タカサゴユリ、オニノゲシ、ニワゼキショウ、オッタチカタバミ、ハルジオン、マツバウンラン、エゾノギシギシ、コバンソウ、メリケンカルカヤ、ヒガンバナ等。比較的少ない種数である。

シダ類：イノモトソウ、オクマワラビ、テリハヤブソテツ、イヌシダ、カニクサ、サイゴクベニシダ、クジャクシダ、ヒロハイヌワラビ、イノデ、イヌワラビ、イワガネゼンマイ、イワガネソ



写真 V-269 スズムシソウ



写真 V-270 ノコギリソウ



写真 V-271 コケイラン

ウ、イワデンダ、オオイタチシダ、オオイヌワラビ、オオベニシダ、クマワラビ、ゲジゲジシダ、サトメシダ、シケシダ、シシガシラ、ジュウモンジシダ、ゼンマイ、トラノオシダ、ナンゴクナライシダ、ノキシノブ、ハクモウイノデ、ベニシダ、ホシダ、ホソバナライシダ、マメヅタ、ミドリヒメワラビ、ミゾシダ、ミヤマノキシノブ、ヤブソテツ、ヤマヤブソテツ、ヤワラシダ、リョウメンシダ、ワラビ。もう少し種が多いのではと期待したが、多くなかった。

特別なもの：タムラソウ、イヌハギ、ノコギリソウ、ヒメウズ、ヤマゴボウ、ユウスゲ、ヨツバハギ。



写真 V-272 ホソバシュロソウ

ク 一色町

県道 20 号線の県境に近いあづま川沿いの農道を調査。

高木層：アカシデ、アセビ、イヌザンショウ、イヌツゲ、ウスノキ、ウツギ、キハギ、クマヤナギ、クロミノニシゴリ、コアジサイ、ヒメコウゾ、コゴメウツギ、コナラ、コバノガマズミ、コバノミツバツツジ、コマユミ、サワフタギ、シロモジ、ツクバネウツギ、ツタ、ツノハシバミ、ツルウメモドキ、ヌルデ、ネジキ、バイカツツジ、ハナイカダ、ホオノキ、マツブサ、マルバアオダモ、ミツバウツギ、モチツツジ、ヤマウルシ、ヤマツツジ。

草本層：アオツツラフジ、ツツラフジ、アキカラマツ、アキノタムラソウ、アマドコロ、イタドリ、エビヅル、オオバギボウシ、オオバコ、オヘビイチゴ、カタバミ、キバナイカリソウ、ウマノアシガタ、クズ、コウゾリナ、サルトリイバラ、シオデ、シシウド、ショウジョウバカマ、シライトソウ、シラヤマギク、スイカズラ、スイバ、スズカカンアオイ、スズメノヤリ、センニンソウ、ダイコンソウ、タガネソウ、タケニグサ、タチイヌノフグリ、タチシオデ、タチドコロ、チガヤ、チゴユリ、チダケサシ、チドメグサ、ツリガネニンジン、ツルニンジン、トウバナ、トボシガラ、ナツトウダイ、ニガナ、ヌカボ、ノアザミ、ノギラン、ノゲヌカススキ、ノブドウ、ハハコグサ、ヒメカンアオイ、ヘビイチゴ、ホソバシュロソウ、ホタルブクロ、ミヤコザサ、ヤブタバコ、ヤマオオイトスゲ、ヤマカモジグサ、ヤマシロギク、ヤマハッカ、ユウガギク、リンドウ、ワレモコウ。ここであった初めての種はホソバシュロソウ、ノゲヌカスゲ、エナシヒゴクサ、トウノウネコノメ、オククルマムグラ等である。

シダ類：シケシダ、シシガシラ、ゼンマイ、ヒカゲノカズラ、ワラビ。

外来種：アレチヌスビトハギ、ウラジロチチコグサ、シロツメクサ、セイタカアワダチソウ、チチコグサモドキ、メマツヨイグサ。

ケ 上切町

この町は北は岐阜県明智町に接し、西は小原地区に界をする山の中である。県道 19 号線が町



写真 V-273 コバノミツバツツジ



写真 V-274 キバナイカリソウ

の中を歩いて、この道沿いを調査した。

木本層：モミ、アラカシ、ミツバアケビ、カスミザクラ、ヒサカキ、シラカシ、ウリカエデ、キツタ、コバノミツバツツジ、コシアブラ、アケビ、ヤブコウジ、アベマキ、ウツギ、コバノガマズミ、ダンコウバイ、コナラ、ミズキ、ヤマフジ、アカシデ、スギ、ヒノキ、ネジキ、ツタ、メダケ、ナガバノコウヤボウキ、エゴノキ、イヌツゲ、タカノツメ、ホオノキ、コシアブラ、アカマツ、イロハモミジ、ヤマウルシ、ハナイカダ、ウスノキ、サルナシ、メギ、チャ、ヒメコウゾ、ハチク、オニグルミ、ヤダケ、シロダモ、ヤブツバキ、ヤマツツジ、オオモミジ、ウワミズザクラ、コクサギ、コゴメウツギ、ウメモドキ、キツネヤナギ。

草本層：オニドコロ、タガネソウ、チゴユリ、キンミズヒキ、ジャノヒゲ、サルトリイバラ、ノギラン、ホタルブクロ、ヤマジノホトトギス、ギンラン、オトコエシ、タチツツボスミレ、オニタビラコ、ドクダミ、ノアザミ、ニガナ、

ヤブタビラコ、アキノキリンソウ、ササユリ、ヌカボ、ヨモギ、スズメノヤリ、ヤクシソウ、ヒカゲスゲ、シュンラン、ヒメヤブラン、ミヤマナルコユリ、スギナ、イタドリ、ツリガネニンジン、コウゾリナ、スイバ、イヌヨモギ、ヒロハタンポポ、タチシオデ、ヘクソカズラ、サルマメ、ツルニンジン、ヤマシロギク、ヒヨドリジョウゴ、ウバユリ、センニンソウ、キラソウ、オトギリソウ、タチキラソウ、クサイチゴ、ダイコンソウ、タネツケバナ、スルガテンナンショウ、ヘビイチゴ、ナガバジャノヒゲ、フキ、コハコベ、オオバコ、ミゾイチゴツナギ、ミズヒキ、ワレモコウ、スズカアザミ、アカネ、ハタザオ、ヤブカンゾウ、アオツツラフジ、クサノオウ、キツネノボタン、ヤブジラミ、カラスノエンドウ、フデリンドウ、ノコンギク、ウド、ツボスミレ、ムラサキサギゴケ、カキドオシ、ヒナタイノコヅチ、キンポウゲ、ヒメハギ、アマドコロ、カワラスゲ、ミツバ、チヂミザサ、ショウジョウバカマ、ユキノシタ、マムシグサ、トチバニンジン、キバナノイカリソウ、シライトソウ、タチドコロ、フユイチゴ、ミゾソバ、ガマ、ハハコグサ、カキノハグサ、ニオイタチツボスミレ、ミツバツチグリ、シラヤマギク、ニガイチゴ、オガルカヤ、ヒメノガリヤス、カリヤス。

外来種：ハルジオン、カモガヤ、オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ、ヒメジョオン、ヒメオドリコソウ、エゾノギシギシ、オランダミミナグサ。さすがにこの山の中では外来種が少なかった。

シダ類：イヌワラビ、オオイヌワラビ、トラノオシダ、シシガシラ、ゼンマイ、クマワラビ、ゲジゲジシダ、ヒメシダ、スギナ、ヤマイタチシダ、ベニシダ、イノデ、ヤブソテツ、オクマワラビ、ノキシノブ、オオベニシダ、ヘビノネゴザ、ワラビ。山地で比較的乾燥しているのか種数は少なかった。

コ 須淵町

南は矢作川に面した町で、東は県道 11 号線が岐阜県串原村との境を通過している。矢作川と道路は数 m 以上の差があって、河畔は崖になっている。県道の両側を調べた。



写真 V-275 ハナイカダ



写真 V-276 ウワミズザクラ

木本層：アケビ、フジ、ヒノキ、チャ、アオキ、ニガキ、ヤマフジ、スギ、エノキ、ツタ、コゴメウツギ、コマユミ、アカメガシワ、クリ、コウヤミズキ、ノイバラ、シラカシ、ウワミズザクラ、コナラ、ウツギ、ズミ、ヤマグワ、ヒメコウゾ、サワフタギ、ヒメウツギ、ニシキギ、エゴノキ、ヤマアジサイ、サンショウ、アカシデ、アブラチャン、ケケンボナシ、ミツバウツギ、ツクバネウツギ、ヤマアサクラザンショウ、ウグイスカグラ、ネコヤナギ、オニグルミ、イイギリ、マルバハギ、サルナシ、ムラサキシキブ、コシアブラ、モウソウチク、クサギ、ヤブムラサキ、タマアジサイ、ウリカエデ、マツブサ、ヒサカキ等。



写真 V-277 イノシシの畧檻

草本層：クサイ、ヨモギ、カキドオシ、ヤブジラミ、ミミナグサ、イノコズチ、カラスノエンドウ、トボシガラ、ヤマシロギク、ヤブカンゾウ、カモジグサ、スイバ、ヤブヘビイチゴ、ウシハコベ、ジャノヒゲ、カタバミ、トウバナ、ナルコユリ、ヤエムグラ、オニドコロ、オオウシノケグサ、マスクサ、ヤブスゲ、チドメグサ、ヤマハタザオ、コハコベ、ニガナ、ナワシロイチゴ、チジミザサ、アオスゲ、アキカラマツ、スズメノヤリ、コモチマンネングサ、ネコハギ、クズ、ヤマカモジグサ、イタドリ、ノアザミ、ネザサ、ノガリヤス、スイカズラ、オニタビラコ、アキチョウジ、ヒロハタンポポ、アキノタムラソウ、センニンソウ、ノコンギク、イワニガナ、コオニタビラコ、シオデ、ヤクシソウ、ヌスビトハギ、ドクダミ、キツネガヤ、キンミズヒキ、オカトラノオ、フシグロセンノウ、ヤマジノホトトギス、ノダケ、シギンカラマツ、クサイチゴ、アカネ、カノツメソウ、ニガクサ、タガネソウ、ヨツバムグラ、ヤブレガサ、タチツボスミレ、コボタンヅル、コウゾリナ、カリヤス、ススキ、チガヤ、イヌショウマ、オニノゲシ、タケニグサ、エゾタチカタバミ、ムラサキサギゴケ、シバ、カラムシ、スズメノエンドウ、クロカワズスゲ、クララ、ゲンノショウコ、ノミノツヅリ、ハハコグサ、ヘビイチゴ、チチコグサ、カナビキソウ、ミズヒキ、ユキノシタ、シュウカイドウ、ハエドクソウ、コアカソ、オトコエシ、アカソ。



写真 V-278 タマアジサイ



写真 V-279 コバノガマズミ

シダ類：イヌワラビ、クマワラビ、ワラビ、コウヤワラビ、ノキシノブ、オウレンシダ、ヤマヤブソテツ、テリハヤブソテツ、ホソバナライシダ、トラノオシダ、ミゾシダ、コバノヒノキシダ、イノモトソウ、スギナ、イヌガンソク、ゲジゲジシダ、ベニシダ、ゼンマイ、ハクモウイノデ
 外来種：ハルガヤ、オオウシノケグサ、ヒロハギシギシ、セイタカアワダチソウ、ヒメジョオン、ハルジオン、シロツメクサ、キキョウソウ、タチイヌノフグリ、ナギナタガヤ、アレチヌスビトハギ、メマツヨイグサ、セイヨウタンポポ、オオイヌノフグリ、ニワゼキショウ、シナダレスズメガヤ、オオキンケイギク、ヨウシュヤマゴボウ。特定外来生物のオオキンケイギクが道路脇にあった。

サ 池島町

旭地区の一番西の町で小原地区と足助地区に接した山の町。北は矢作川に沿った県道 355 号線で崖がせまり，多少開けた所に老人福祉センター，ぬくもりの里がある。山の上で南側の御蔵町の境にホタルカズラの大群落がある。

木本層：アオキ，アカシデ，アベマキ，アラカシ，イタヤカエデ，ウツギ，ウリカエデ，ウワミズザクラ，エゴノキ，エノキ，エンコウカエデ，キツタ，キブシ，クリ，クロモジ，コナラ，サルナシ，サンショウ，シラカシ，スギ，タマアジサイ，タラノキ，ツタ，ツリバナ，テイカカズラ，ハナイカダ，ヒサカキ，ヒノキ，マタタビ，ミズキ，ミツバアケビ，ムラサキシキブ，メダケ，ヤブコウジ，ヤマアジサイ，ヤマグワ，ヤマツツジ，ヤマブキ。

草本層：アカネ，イタドリ，イチゴツナギ，イノコズチ，ウシハコベ，ウバユリ，オオバコ，オオバタネツケバナ，オヘビイチゴ，オトコエシ，オニドコロ，オヤマボクチ，カキドオシ，キンミズヒキ，クサアジサイ，クサイチゴ，クサキビ，クサノオウ，クマイチゴ，ゲンノショウコ，コナスビ，コハコベ，コモチマンネングサ，サルトリイバラ，ジャンジン，シラヤマギク，ジロボウエンゴサク，スイカズラ，スズメノヤリ，センニンソウ，ダイコンソウ，タチツボスミレ，タネツケバナ，ツボスミレ，ツリガネニンジン，ツルニンジン，トウバナ，ドクダミ，トリアシショウマ，ナキリスゲ，ナワシロイチゴ，ニオイタチツボスミレ，ニガイチゴ，ニガナ，ヒナタイノコズチ，フウロケマン，フキ，フタリシズカ，フユイチゴ，ヘビイチゴ，ホウチャクソウ，ホタルカズラ，ミズヒキ，ミツバ，ミツバツチグリ，ミドリハコベ，ミミナグサ，ミヤマキケマン，ムラサキケマン，モミジイチゴ，ヤエムグラ，ヤブカンゾウ，ヤブジラミ，ヤブヘビイチゴ，ヤマシロギク，ヤマネコノメソウ，ミヤマフユイチゴ，ヤマホタルブクロ，ヨモギ，ワレモコウ。

シダ類：イヌワラビ，イノデモドキ，クマワラビ，コバノヒノキシダ，スギナ，ゼンマイ，トラノオシダ，ヒロハヤブソテツ，フユノハナワラビ，ベニシダ，ヤマヤブソテツ，リョウメンシダ，ワラビ，シダ類が少ないのは，湿性地が少ないためと思われる。

外来種：アレチヌスビトハギ，オランダミミナグサ，カモガヤ，ゲンゲ，タチイヌノフグリ，ハルガヤ，ハルジオン，ヒメジョオン，ヒロハギシギシ。さすが山の中，外来種は少ない。

シ 小渡町

小渡町には旭村の頃から役場があつて，豊田市と合併後旭支所になった。また神社は村社として神明神社がありスギとイチョウの大木がある。神社を中心に調査するも，境内は種の数も少ないが裏山に続くので数が多く出た。



写真 V-280
ホタルカズラが覆った岩



写真 V-281 ホタルカズラ



写真 V-282 ウラシマソウ

木本層：ミズキ，アケビ，ヤマブキ，フカギレオオモミジ，ヤマツツジ，コマユミ，コゴメウツギ，ハナイカダ，ヤマウルシ，ツタ，チャノキ，ミツバウツギ，シラカシ，ヤマグワ，ナガバノモミジイチゴ，イボタノキ，ウツギ，ノダフジ，アカメガシワ，オオモミジ，アワブキ，アカシデ，ケヤキ，イヌシデ，コマツナギ，ナンテン，アズキナシ，フモトミズナラ，ネムノキ，ヤマザクラ，サワフタギ，クサギ，ツノハシバミ，サイゴクキツネヤナギ，スギ，イチョウ，モウソウチク，クリ，コナラ，モチツツジ，イヌザンショウ，マンサク，ガmazミ，ウリカエデ，イヌツゲ，カシワ，メダケ，コウゾ，アブラチャン，アオキ，コアジサイ，サルナシ，ビワ，エノキ，マタタビ，ウワミズザクラ，ヤブデマリ，モミジイチゴ，ヤマコウバシ，クロモジ，キハギ，ヤマアサクラザンショウ，ニガイチゴ，ムラサキシキブ，ヤマアジサイ，オオツツラフジ，タマアジサイ，ケケンポナシ，イイギリ，シラキ，ヤマフジ，マダケ，モウソウチク。

草本層：アオカモジグサ，アオカラムシ，ヤブヘビイチゴ，ヒロハタンポポ，アカソ，オニタビラコ，イタドリ，ムラサキケマン，オニドコロ，ヤマシロギク，ノブドウ，ヤマハタザオ，ノアザミ，ヤマカモジグサ，ノイバラ，タチツボスミレ，スズカアザミ，オオバコ，ナガバノモミジイチゴ，ニガクサ，タチドコロ，ヤマハッカ，タチシオデ，ヒメヤブラン，ススキ，ホタルブクロ，アキノノゲシ，クズ，アキカラマツ，ヤクシソウ，ツリガネニンジン，アキノキリンソウ，シラヤマギク，ニガナ，リュウノウギク，スルガテンナンショウ，コボタンヅル，マスクサ，ヤマヌカボ，ウマノアシガタ，ドジョウツナギ，イヌガラシ，ハコベ，ボタンヅル，ゲンノショウコ，ヘビイチゴ，ヘクソカズラ，カキドオシ，トウバナ，アオツツラフジ，スズメノヤリ，オヤマボクチ，サルマメ，スズメノカタビラ，シライトソウ，ヤブカンゾウ，ノコンギク，オオバギボウシ，センニンソウ，ネザサ，ウラシマソウ，フタリシズカ，チドメグサ，ササユリ，ナガバノスミレサイシン，ヌマダイオウ，オオウシノケグサ，キンミズヒキ，ミツバ，コモチマンネングサ，キエビネ，コウゾリナ，スズメノエンドウ，メヤブマオ，アマチャヅル，ノブキ，ダイコンソウ，サワギク，ヌスビトハギ，ナキリスゲ，シンミズヒキ，キツリフネ，ギョウジャノミズ，アキノタムラソウ，クサスゲ，タケニグサ，ミゾソバ，マツカゼソウ，マムシグサ，フキ，ツボスミレ，イワニガナ，ムラサキサギゴケ，ミズタマソウ，アケボノソウ，ニガイチゴ，セキヤノアキチョウジ，ウマノミツバ，シュウブソウ，アカショウマ，ミヤマシラスゲ，ツルリンドウ，ホタルイ，コブナグサ，ミヤマシラスゲ。

シダ類：イヌワラビ，イヌシダ，カニクサ，ワラビ，コウヤワラビ，ツヤナシイノデ，リョウメ



写真 V-283 小渡町神明神社



写真 V-284 ムラサキケマン



写真 V-285 キエビネ



写真 V-286 ニリンソウ

ンシダ, ヤブソテツ, シシガシラ, シケチシダ, ジュウモンジシダ, キヨスミヒメワラヒ, クラマゴケ, ヒメワラビ, ナキリスゲ, クジャクシダ, サカゲイノデ, アイアスカイノデ, ハリガネワラビ, イワガネソウ, ヒメクラマゴケ, イヌガンソク, ミゾシダ, オオイヌワラビ, スギナ.
 外来種: メマツヨイグサ, アレチヌスビトハギ, ヒロハギシギシ, シロツメクサ, オニウシノケグサ, ヒメジョオン, オオキンケイギク, フランスギク.

ス 杉本町

杉本神明社を中心に周辺を調査した. 神社の横の山に個人で旭地区の植物を集めて植えたエビネ園があるが, このものは対象外としている. 杉本神明社の入り口に国指定天然記念物「杉本の貞観スギ」が立っている. 目通幹周は 11.7m, 樹高 45m, 推定樹齢 1,100 年と言われている. 愛知県で一番高く普通頂上の葉が落ちたりするが, この杉は先まで葉が茂っている.



写真 V-287 貞観杉

木本層: アオキ, アオジクユズリハ, アオハダ, アカシデ, アカメガシワ, アケビ, アベマキ, アラカシ, イヌツゲ, イボタノキ, イロハモミジ, ウツギ, ウメモドキ, エゴノキ, カキノキ, カシワ, カスミザクラ, キツタ, キバナイカリソウ, キブシ, クヌギ, クリ, クロモジ, コシアブラ, コナラ, コバノミツバツツジ, コマユミ, サカキ, サンショウ, シラカシ, スギ, チャノキ, ツクバネウツギ, ツタ, ツルアジサイ, テイカカズラ, ナンテン, ニワトコ, ヌルデ, ネムノキ, フジ, バイカツツジ, ハナイカダ, ヒイラギ, ヒサカキ, ヒノキ, ヒメコウゾ, ホオノキ, マダケ, マタタビ, マンサク, ミズキ, ミツバアケビ, ムラサキシキブ, メダケ, ヤブウツギ, ヤマウルシ, ヤマザクラ, ヤマツツジ, ヤマブキ, ヤマフジ, ユズリハ.

草本層: アカソ, アカネ, アキカラマツ, アブラススキ, イタドリ, イヌショウマ, イヌナズナ, ウバユリ, ウマノミツバ, オオバタネツケバナ, オトコヨモギ, オニタビラコ, カキドオシ, カスマグサ, カラスノエンドウ, カラムシ, カンサイタンポポ, キツネノボタン, キンミズヒキ, クサアジサイ, クサヨシ, ケキツネノボタン, ゲンノショウコ, コウゾリナ, コナスビ, コボタンヅル, サンショウ, ジャノヒゲ, ショウジョウバカマ, シライトソウ, シラヤマギク, ジロボウエンゴサク, スイカズラ, スイバ, スズカアザミ, ススキ, スズメノカタビラ, スズメノテッポウ, スズメノヤリ, スルガテンナンショウ, セトガヤ, セリ, ダイコンソウ, タチキランソウ, タチツボスマレ, タネツケバナ, チガヤ, チゴユリ, チダケサシ, チチゴグサ, ツボスマレ, ツリガネニンジン, ツルニンジン, ドクダミ, ナガハグサ, ナキリスゲ, ナズナ, ナワシロイチゴ, ヌカスゲ, ネコノメソウ, ノゲヌカスゲ, ノコンギク, ハエドクソウ, ハハコグサ, ヒメノガリヤス, ヒメヘビイチゴ, フキ, ヘビイチゴ, ホタルブクロ, ミズヒキ, ミゾソバ, ミツバ, ミミナグサ, ミヤマシラスゲ, ミヤマフユイチゴ, ムラサキケマン, ムラサ



写真 V-288 チゴユリ



写真 V-289 ネコノメソウ

キニガナ，メガルカヤ，ヤエムグラ，ヤクシソウ，ヤブジラミ，ヤブヘビイチゴ，ヤブラン，ヤマイ，ヤマジノホトトギス，ヤマシロギク，ヤマゼリ，ヤマネコノメソウ，ヤマホタルブクロ，ヨモギ，ワレモコウ。

シダ類：イヌワラビ，イノデ，オオイタチシダ，オオキジノオ，オオベニシダ，オクマワラビ，キヨスミヒメワラビ，クジャクシダ，クマワラビ，ゲジゲジシダ，サイゴクイノデ，シシガシラ，ジュウモンジシダ，ゼンマイ，ハクモウイノデ，ヒロハイヌワラビ，ベニシダ，ヘビノネゴザ，ヤブソテツ，ヤマイタチシダ，ヤマイヌワラビ，ヤマヤブソテツ，リョウメンシダ，ワラビ。

外来種：オオイヌノフグリ，オニウシノケグサ，オランダミミナグサ，カモガヤ，シロツメクサ，セイタカアワダチソウ，タチイヌノフグリ，ハルジオン，ハルノノゲシ，ヒガンバナ，ヒメオドリコソウ，ヒメジョオン，ヒメスイバ，メマツヨイグサ，セイヨウタンポポ。



写真 V-290 ヒメオドリコソウ
(外来種)

セ 伊熊神社

伊熊町の標高 563m の山頂にあり，4.75ha を自然環境保全地域に愛知県が 1977 年に指定した．西三河の代表的な天然林で，暖帯性と温帯性の両植生によって構成されている．シラカシ，アラカシ等を主体とした暖地性植生に針葉樹のモミ，落葉樹のコアサダ，ウワミズザクラ等の温帯性をまじえた混交樹林が極相状態で成立している．その構成種はフタバアオイ，マネキグサ，サカネラン，キジョラン，トウゴクサバノオ等県内の希少種が密度高く自生している．コアサダは本邦では中部以北に分布するもので，本社叢には十数本産し，その中で最大のものは樹高 25m にもなる．



写真 V-291 伊熊山

木本層：アオキ，アカシデ，アカマツ，アラカシ，イヌツゲ，イボタノキ，イロハモミジ，ウグイスカグラ，ウツギ，ウリカエデ，ウワミズザクラ，エゴノキ，エノキ，オニグルミ，カキ，カシワ，ガマズミ，カヤ，キツタ，クリ，クロマツ，ケヤキ，コアサダ，コウゾ，コゴメウツギ，コナラ，コバノガマズミ，コバノミツバツツジ，コマツナギ，サンシュユ，シデコブシ（植栽種），シラカシ，スギ，ダンコウバイ，チャノキ，ツタ，ツリバナ，ツルマサキ，テイカカズラ，ナツグミ，ナワシロイチゴ，ナンテン，ハチク，ハナモモ，ヒサカキ，ヒノキ，ホオノキ，マグワ，マタタビ，ミカワツツジ，ミズキ，ミツバアケビ，ミヤマシキミ，ムラサキシキブ，メダケ，モウソウチク，モミ，モミジイチゴ，ヤダケ，ヤブウツギ，ヤブコウジ，ヤブツバキ，ヤマアジサイ，ヤマザクラ，ヤマテリハノイバラ，ヤマナシ，ヤマブキ，レンギョウ。

草本層：アキカラマツ，アキノノゲシ，アズマヤマアザミ，アブラススキ，アマドコロ，イタドリ，イチゴツナギ，イヌガラシ，イヌショウマ，イヌナズナ，イワニガナ，ウシハコベ，ウバユリ，ウマノミツバ，ウラシマソウ，オオバコ，オオバタネツケバナ，オニドコロ，オモト，カキドオ



写真 V-292 フタバアオイ

シ、カタバミ、ガマ、カリヤス、カワラナデシコ、カンサイタンポポ、キジョラン、キランソウ、クサイチゴ、ケキツネノボタン、ゲンノショウコ、コハコベ、サカネラン、サネカズラ、サラシナショウマ、サワハコベ、シャガ、シユンラン、ショウジョウバカマ、スイバ、スズカアザミ、スズメノカタビラ、スズメノヤリ、スルガテンナンショウ、タチツボスミレ、タネツケバナ、チガヤ、チダケサシ、ツルボ、ツルリンドウ、ヒロハタンポポ、トウゴクサバノオ、ドクダミ、ナズナ、ヌカボシソウ、ヌスビトハギ、ネコノメソウ、ノビル、ノブドウ、ノミノツヅリ、ハナイバナ、ヒメウワバミソウ、ヘビイチゴ、フキ、フタバアオイ、フッキソウ、フユイチゴ、ホウチャクソウ、ホタルブクロ、ホトケノザ、マネキグサ、ミゾソバ、ミツバ、ミミナグサ、ミヤコザサ、ミヤマキケマン、ミヤマフユイチゴ、ムカゴイラクサ、ムラサキケマン、ムラサキサギゴケ、ヤエムグラ、ヤブニンジン、ヤマキツネノボタン、ヤマジノホトトギス、ヤマネコノメソウ、ヤマノイモ、ヤマハタザオ、ユリワサビ、ヨモギ、ワサビ。

シダ類：イノデ、オオベニシダ、クサソテツ、クジャクシダ、クマワラビ、ゲジゲジシダ、サイゴクイノデ、シシガシラ、スギナ、ゼンマイ、フユノハナワラビ、ベニシダ、マメツタ、ワラビ。

外来種：オオイヌノフグリ、オランダミミナグサ、シロツメクサ、タカサゴユリ、ハルガヤ、ハルジオン、ヒメオドリコソウ、フランスギク。



写真 V-293 ミヤマシキミ



写真 V-294 クサソテツ

(4) 調査のまとめ

旭地区は北側に矢作川があつて、この川が県境となっている。ただ中切、下切、一色、浅谷、島崎、須渕等は矢作川の北側にあつて県境になっている。地区内はほとんど山で、地区内に大きい川が無い。東の稲武地区との境を段戸川が南から北へ流れ、奥矢作湖へ流れ込んでいる。これに平行して坪崎川が流れ段戸川に合流する。足助地区の大野から発した介木川は北へ向かつて流れ槇本、八幡、余平、万町等を経て小渡にて矢作川に流れ込む。あとの1本は伊勢神峠から発した阿摺川は西へ向かつて国道153号線に沿って流れ、加塩から榊野から万根を抜けて県道357号線に沿って西へ流れ、途中から県道33号線沿いに流れて月原で本流に入る。

山の中の旭地区はこれだけしか川が無い。従つて田畑も少なくわずかな湧き水を田畑に使っている。そのため湿地もあまりなく、湿地性の植物も少なかった。植林が進んでいてスギ、ヒノキ林が多い。自然林は植林に向かない急斜面に多く、植生調査のコドラートをつくるのに苦労した。そのお蔭で地域内にまんべんなく調査し、20か所を調べることができた。

旭地区は町の区画が小さく、37の町に分かれていて、現地で何町かを知ることが難しかった。カーナビの表示する町や字を頼るしかなかった。通常の植物調査は基本的に道路のあるところを調べた。植物種から見ると希少種が見つかることがあるので、多少無理をしても上流まで調査した。

8 稲武地区の植物

(1) 稲武地区の概要

稲武地区の標高は、北部の川手・押山地区が低く矢作川河畔で標高が 320m、中央丘陵地域の稲橋付近では 500m、周りは木曾山脈に属する段戸山系の 800~1,000m 級の高い山々に囲まれている。南東部の設楽町境にある面ノ木峠が標高 1,240m の最高点、次が東部の三国山 1,161.6m である。観光の山は面ノ木峠にある天狗棚、三国山（亀甲岩が有名）、井山町の月ヶ平 938m、夏焼町の城ヶ山 889.1m、中当町の城ヶ山 918m、面ノ木峠（天竜奥三河国定公園）や黒田ダム（愛知高原国定公園）などである。特に面ノ木原生林は国定公園の特別保護区に指定されている。

この地区は林業先進地として多くの山地にはスギ・ヒノキが植栽されているが、中でも面ノ木西北には名古屋大学の演習林があり、西の御所貝津町北東部に郡有林（北設楽郡）の美林がある。そのほか私有地には植林されていても、見た目には見事な森林を形成しているが、林内は間伐がされてなく暗く生育もままならない樹木が多く、地面が荒れている。

これらの山々の谷間から流れて作られた名倉川、黒田川、野入川（根羽川を合流）、段戸川（小田木川を合流）などの河川がある。これらの川は地区の西北部を流れる矢作川にそそいでいる。黒田町の水別峠から西は段戸川、同峠東の小川は東流し、また南西部の山地から流れる小川は黒田ダムを通り黒田川と合流し稲武市街地へ、南流する名倉川は稲武市街地北で合流し北流して矢作川へ入る。稲武市街地東の峠を越した野入町には、面ノ木峠北斜面の水を集める野入川が流れるなど地形的に川が幾筋も存在しているが、全ての川は矢作川に流入する。稲武地区全体を見ると南高北低のやや菱形をしている。

人工的な施設としては、押山町と夏焼町にまたがる稲武ゴルフ場、小田木町の段戸牧場、黒田町の黒田ダム、名古屋市の野外学習センターが富永町に、また名古屋市野外教育センターが井山町にある。稲武地区の北は岐阜県恵那市、東は長野県根羽村と接している。総面積は 98.63km² である。

(2) 森林植生

旭地区と同様植生調査に適した自然林を選定し、植物社会学的調査を行い各群落断面模式図とその平面図、群落組成表を作った。調査の方法については第 2 項植物調査 (P. 78) による。

ア アカマツ・コナラ群落

稲 1-6326 小田木町字シツタキ 北 20 度西の南東向き 32 度斜面、海拔 570m、植物種数 19 種。

国道 153 号線の小田木中から北へ入った小田木川の左岸の山斜面、旧中馬街道の一部。

イ タムシバ・ミツバツツジ群落

稲 2-6327 小田木町水分 北 70 度西の西北向き 40 度の急斜面、海拔 775m、植物種数 18 種。

国道 153 号線の水分の信号、奥矢作第 1 発電所の道を黒田ダムの方へ約 200m の地点。道路の南側の西向き斜面。タムシバの大木が並び壮観である。ミズナラのかかなり太いものもあるが影が



写真 V-295 面ノ木の天狗棚を望む



写真 V-296 面ノ木のブナ原生林

オ アカシデ林

稲 5-6472 野入町中平 北 30 度東の南西向き 35 度の斜面, 海拔 685m, 植物種数 35 種.
上野入から北へ稲武 OGM ゴルフ場の南, 交差点から約 150m 北の南向き斜面.

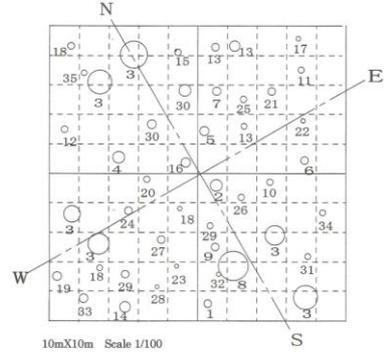
植 生 調 査 表

No. 稲 5-6472	凡例名 (標準名)	アカシデ林	地図1:5万
調査地	愛知県 豊田市 稲武地区	野入町 中平	(海拔) 685m
(地形) 山 尾 尾の斜面 上・中・下・谷・凹	谷 平地	(風向) 強・中・弱	(方位) N30° E
(土質) 砂質・砂・粘土・赤土	アソド・クワイ・黒グライ・白土・白土・赤土	(傾斜) 35°	
河川・沖積 基盤層 崩壊層 崩壊層 崩壊層	水溜り 水溜り 水溜り	(面積) 10m X 10m=100m ²	
(樹種) (優占種)	(高さm)	(樹径cm)	(出現種数) 35
T ₁ 高木層 アカシデ	6 ~ 8	10	10
T ₂ 中木層 ソコゴ	2 ~ 6	15	5
S 低木層 ヤマツツジ	0.5 ~ 2	5	1
H 草本層 カヤ	0.1 ~ 0.5	ア	
M コケ層	~		

S	D-S	V	SPP.	S	D-S	V	SPP.	S	D-S	V	SPP.
T ₁	2-2		リョウブ	H	++		カヤ				
2	2-2		コナラ		+		ソコゴ				
3	3-3		アカシデ		++		イヌツグ				
4	*		カスミザクラ		+		シュンラン				
5	*		ヤマザクラ		+		バシカクジ				
6	2-2		ミヤマトサミズキ		++		ミヤマガマズミ				
7	*		アケビ		+		ヤマツツジ				
8	*		ミズナラ		+		チイカズラ				
9	*		ヤマウルシ		+		ツルリンドウ				
10	*		オオズミ		+		アカマツ				
11	*		ミズキ		+		ミツバアケビ				
12	*		アオハダ		+		ミツバツツジ				
13											
14											
T ₁	++		ウリハダカエデ								
17	++		ウリカエデ								
18	*		サルトリイバラ								
19	*		クシナサワフタギ								
20	++		ミヤマウグイスカグラ								
21	++		イヌツグ								
22	*		ヤマウルシ								
23	*		ネジキ								
24	*		ダンコウバイ								
25	*		エゴノキ								
26	*		クリ								
27	*		アオダモ								
28											
29											
30											
S	1-1		ミツバツツジ								
31	++		ミヤマガマズミ								
32	*		ヤマツツジ								
33	*		ミヤマウグイスカグラ								
34	*		イボク								
35	*		イロハモミジ								

図 V-46 野入町 植生調査表

稲武 5-6472 調査 2009 年 3 月 26 日

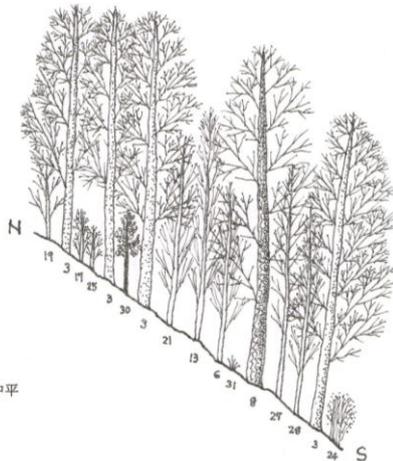


- | | | |
|------------|---------------|------------|
| 1 リョウブ | 13 ウリハダカエデ | 25 ミヤマガマズミ |
| 2 コナラ | 14 ウリカエデ | 26 ヤマツツジ |
| 3 アカシデ | 15 サルトリイバラ | 27 イボクノキ |
| 4 カスミザクラ | 16 タナサワフタギ | 28 イロハモミジ |
| 5 ヤマザクラ | 17 ミヤマウグイスカグラ | 29 カヤ |
| 6 ミヤマトサミズキ | 18 イヌツグ | 30 ソコゴ |
| 7 アケビ | 19 ネジキ | 31 シュンラン |
| 8 ミズナラ | 20 ダンコウバイ | 32 チイカズラ |
| 9 ヤマウルシ | 21 エゴノキ | 33 ツルリンドウ |
| 10 オオズミ | 22 クリ | 34 アカマツ |
| 11 ミズキ | 23 アオダモ | 35 ミツバアケビ |
| 12 アオハダ | 24 ミツバツツジ | |

野入町中平 アカシデ林
北 30 度東の南西向き 35 度傾斜の斜面, 海拔 685m, 植物種数 35 種.
上野入から北へ稲武 OGM C C の南, 交差点から約 150m 北の南向き斜面.

図 V-47 野入町 植生投影図

稲武 5-6472
海拔 685m
方位 N30° E
傾斜 35°



稲武 5-6472
旭地区野入町中平
アカシデ林
断面模式図

図 V-48 野入町 断面模式図



写真 V-298 野入町
稲 5-6472 のコドラート

カ エドヒガン林

稲 6-6474 野入町木地山 北 110 度西の西南向き 36 度の急斜面. 海拔 760m, 植物種数 18 種.
国道 153 号線の木地山交差点から南へ木地山川に沿った林道に入り, 入り口から約 150m の川沿い左岸の斜面. エドヒガンの大木の 3 本が目立つ. 常緑樹の少ない明るい林.

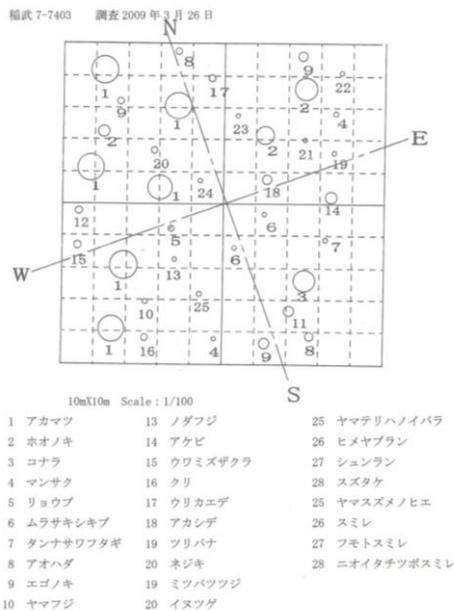
キ アカマツ林

稲 7-7403 大野瀬町下柏洞 北 20 度西の南東向き 38 度の斜面. 海拔 560m, 植物種数種 28 種.

国道153号線の大野瀬トンネルの真上, 旧道の空き地に駐車, トンネルの上へ通じる道を登り, トンネルから約100m登った斜面. 初め晴れていたが10m角のコラードをロープで作り, 測定と植物種の調査中に曇から雪が降り出し, 急遽片付けて下山するころには猛吹雪になり, 周りの山も国道も見えなくなった. なんとか無事撤収した.

植生調査表							
No. 稲7-7403	凡例名(群落名)	アカマツ林		地図1:5万			
調査地	愛知県 豊田市 稲武地区	大野瀬町下柏洞		(海拔)	560m		
(地形) 山頂	尾根・斜面	上・中・下・凸・凹	谷 平地	(風向) 強・中・弱	(方位) N20° W		
(土壌) ポド性・○種菌・赤・黄・黄緑菌・アンド・グライ・擬グライ(日当陽・○中陰・陰)	(植相)			(植相)	38°		
冠層・序層・高層葉・非開花層・開花層・水面下・その他()	(土壌) 乾・○過・湿・過湿	(面積)	10m X 10m=100㎡	(出現種数)	28		
(層) (優先種) (高さm) (被率%) (胸径cm) (種数)	(出現種数)			(備考)			
T. 高木層	アカマツ	0 ~ 12	80	20	7		
T. 亜高木層	ホオノキ	2 ~ 8	15	5	2		
S. 低木層	ムラサキシキブ	0.5 ~ 2	10	2			
H. 草本層	スズタケ	0.1 ~ 0.5	5				
M. コケ層							
平成21年3月26日							
S	D-S	V	SPP	S	D-S	V	SPP
1	4-4		アカマツ	H	+		ヒメヤブラン
2			ホオノキ		+		シジュンラン
3			コナラ		+		ミツバツツジ
4					+		スズタケ
5					+		ヤマズズメノヒエ
6	2-2		マンサク		+		スミレ
7	1-1		リュウブ		++		フモトスミレ
8	++		ムラサキシキブ		+		ニオイタチツボスミレ
9	1-1		タンナサワフタギ		+		
10	1-1		アオハダ				
11	1-1		コナラ				
12	1-1		ホオノキ				
13	2-2		エゴノキ				
14	+		ヤマフジ				
15	+		ノダフジ				
16	+		アケビ				
17	+		ウツミスズガラ				
18	+		クリ				
19	+		ウリカエデ				
20	+		アカシデ				
21							
22							
23							
24							
25	+		ツリバナ				
26	+		ネジキ				
27	2-2		ミツバツツジ				
28	+		アオハダ				
29	++		タンナサワフタギ				
30	++		ミヤマウグイスカグラ				
31	+		イヌツゲ				
32	+		ヤマドリハイハナ				
33							
34							
35							

図 V-49 大野瀬町 植生調査表



大野瀬町下柏洞 アカマツ林
北20度西の南東向き38度傾斜の斜面, 海拔560m, 植物種数28種.
国道153号線の大野瀬トンネルの真上, 旧道の空き地に駐車, トンネルの上へ通じる道を登り, トンネル入り口から約100m登った斜面. 初め晴れていたが10m角のコラードをロープで作り, 測定と植物種の調査中に曇から雪が降りだし, 片付けて下山する頃は猛吹雪になり, 周囲の山も国道も見えなくなった. 無事撤収した.

図 V-50 大野瀬町 植生投影図

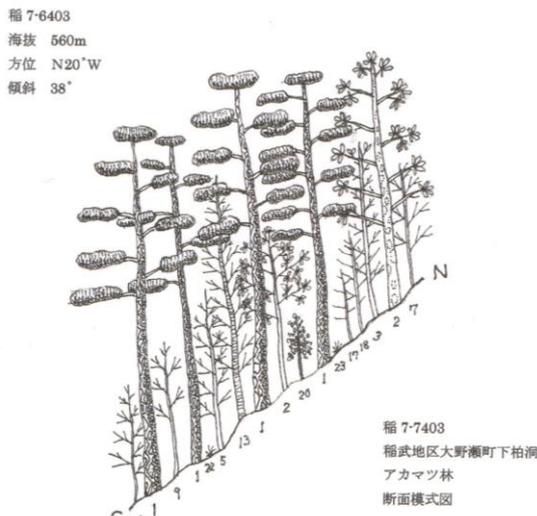


図 V-51 大野瀬町 断面模式図



写真 V-299 大野瀬町
稲7-7403のコラード

以上稲武地区では7か所を調査した. その全てを表記するには過大のため, 3か所を表記する.

- イ タムシバ・ミツバツツジ群落 稲2-6327
- オ アカシデ林 稲5-6472
- キ アカマツ林 稲7-7403

(3) 三国山

三国山は標高 1,161.5m で愛知県豊田市、岐阜県恵那市と長野県下伊那郡の県境にあり、愛知県の最北端にある。国道 153 号線の犬野瀬トンネルをぬけ、矢作川を渡ると長野県に入る。しばらくそのまま走り月瀬で左に曲り県道 101 号線になる。途中からまた愛知県豊田市になる。大桑の交差点を右に曲がると池の平への径である。

山頂付近は火山岩が分布し、一部に玄武岩の露頭があって「亀甲岩」と言われているが、これらは長野県側にあって県の天然記念物になっている。豊田市側は南斜面で植林、自然林、草地の「池の平」になっている。草地は元牧場だが現在はパラグライダーやダートトライアルコースになっている。ここでは南斜面の自然林の調査をする。

木本層：アカシデ、アカマツ、アブラチャン、イヌコリヤナギ、イヌシデ、イヌツゲ、イワガラミ、ウツギ、ウリハダカエデ、エゴノキ、エンコウカエデ、オオバヤシャブシ、オニツルウメモドキ、カスミザクラ、シラカンバ、カマツカ、カラマツ、キツネヤナギ、クマイチゴ、ケケンポナシ、ケヤマハンノキ、コナラ、コマユミ、サルナシ、サワシバ、サワダツ、シロモジ、ズミ、タラノキ、タンナサワフタギ、ツタ、ツタウルシ、ツノハシバミ、ツリバナ、ニガイチゴ、ニシキウツギ、ヌルデ、ノリウツギ、ハリギリ、ヒメウツギ、ホオノキ、マツブサ、ミズキ、ミズナラ、ミズメ、ミツバアケビ、ミツバツツジ、ミヤマイボタ、ミヤマガマズミ、ムラサキシキブ、モミジイチゴ、ヤシャブシ、ヤブウツギ、ヤブデマリ、ヤマウルシ、ヤマネコヤナギ、ヤマザクラ、ヤマテリハノイバラ、ヤマハギ、ヤマハンノキ、リョウブ、レンゲツツジ。

草本層：アカショウマ、アカバナ、アキノキリンソウ、アキノタムラソウ、アケボノソウ、アブラガヤ、アマドコロ、イタドリ、イトスゲ、イヌビユ、エンレイソウ、オオガンクビソウ、オオバギボウシ、オオバタネツケバナ、オククルマムグラ、オヤマボクチ、カリヤス、キンミズヒキ、クサイ、コハコベ、ゴマナ、サワギク、シシウド、シラコスゲ、スズカアザミ、スマレ、スルガテンナンショウ、セキヤノアキチョウジ、チゴユリ、チダケサシ、ツリガネニンジン、ツリフネソウ、トボシガラ、ナルコユリ、ノブキ、ハンゴンソウ、ヒメカンスゲ、ヒメホタルイ、ヒメヨモギ、ヒヨドリバナ、フシグロセンノウ、フタリシズカ、ホタルイ、ホタルブクロ、ボタンヅル、マムシグサ、ミゾイチゴツナギ、ミゾソバ、ミツバツチグリ、ミミナグサ、ミヤマシラスゲ、ミヤマタニタデ、ムラサキケマン、ヤブタバニコ、ヤブヘビイチゴ、ヤマオダマキ、ヤマシロギク、ヤマジノホトトギス。

シダ類：イヌワラビ、クマワラビ、サトメシダ、ゼンマイ、ヘビノネゴザ、ヤマドリゼンマイ。

外来種：アカツメクサ、オオイヌノフグリ、オニウシノケグサ、カモガヤ、セイタカアワダチソ



写真 V-300
県道 101 号線から見た三国山



写真 V-301 アマドコロ



写真 V-302 ヤマジノホトトギス

ウ、ヒメオドリコソウ、メマツヨイグサ。

(4) 池の平牧場跡

牧場をやめた跡地が草原になり、周辺に木が生えて林になっている。一部は湿地になっている。

木本層：ウリハダカエデ、エゴノキ、オニツルウメモドキ、クリ、サルナシ、シロモジ、ツノハシバミ、ノイバラ、ノリウツギ、バイカツツジ、ホオノキ、ミヤマイボタ、モミジイチゴ、ヤマネコヤナギ、ヤマザクラ、ヤマテリハノイバラ、ヤマハギ、ヤマハンノキ、リョウブ。

草本層：アキノキリンソウ、アケボノソウ、アゼスゲ、アブラガヤ、アマドコロ、イグサ、イタドリ、ウシノケグサ、ウド、オオバギボウシ、オカトラノオ、オトギリソウ、キジムシロ、キンポウゲ、ゴマナ、シラゲガヤ、スイカズラ、スズカアザミ、チダケサシ、ツボスミレ、トダシバ、トモエソウ、セイヨウノコギリソウ、ノハナショウブ、ハンゴンソウ、マツバスゲ、マツムシソウ、ミツバツチグリ、ミヤマシラスゲ、ヤブガラシ、ヤマズメノヒエ、ユウガギク、ヨモギ、リンドウ。

シダ類：サトメシダ、ヒメシダ、ヘビノボラズ、ヤマドリゼンマイ。

外来種：アカツメクサ、カモガヤ、ハルガヤ、メリケンカルカヤ。



写真 V-303 池の平牧場跡

(5) 大桑飲料水供給施設の沢

かなり大きな沢で二又に分かれている。大きい方の谷筋を調査した。奥は深いが2段目の砂防堰までを調査した。

木本層：アケビ、アブラチャン、イタヤカエデ、ウツギ、ウメモドキ、オニツルウメモドキ、カスミザクラ、キブシ、クリ、ケヤキ、コアジサイ、コクサギ、コナラ、サルナシ、サンショウ、シロモジ、スギ、タマアジサイ、タラノキ、ダンコウバイ、ツリバナ、ニワトコ、ヌルデ、フジ、バイカツツジ、ハナイカダ、ヒノキ、ヒメウツギ、フカギレオオモミジ、フサザクラ、マタタビ、マンサク、ミズキ、ミズナラ、ミツバアケビ、ミツバウツギ、ミツバツツジ、ミヤマハハソ、ムラサキシキブ、モミジイチゴ、ヤブウツギ、ヤブデマリ、ヤマアサクラザンショウ、ヤマアジサイ、ヤマウコギ、ヤマウルシ、ヤマグワ、ヤマザクラ、ヤマツツジ、ヤマネコヤナギ、ヤマハンノキ、ヤマブキ、ヤマヤブデマリ、リョウブ。

草本層：アカソ、アカネ、イタドリ、イワニガナ、ウバユリ、ウワバミソウ、オオカモメヅル、オオバギボウシ、オオバコ、オカトラノオ、オククルマムグラ、オククルマバハグマ、カリヤス、カンスゲ、キンミズヒキ、クサアジサイ、クサスゲ、クモキリソウ、ククルマバハグマ、ククルマムグラ、クワガタソウ、ゲンノショウコ、コアカソ、コカンスゲ、コミヤマスミレ、コモチマンネングサ、ササユリ、サルトリイバラ、サワギク、シシウド、シラネセンキュウ、スイバ、スズカ



写真 V-304 大桑飲料水供給施設



写真 V-305 スズムシソウ

アザミ、スズタケ、スズムシソウ、セキヤノアキチョウジ、
 ダイコンソウ、タガネソウ、タケニグサ、タチツボスミレ、
 タチドコロ、タニギキョウ、チヂミザサ、チャルメルソウ、
 ツリフネソウ、ツルカノコソウ、トウゴクサバノオ、トウ
 ノウネコノメ、トチバニンジン、トリアシショウマ、ナギ
 ナタコウジュ、ヌカボシソウ、ノコンギク、ノブキ、ハエ
 ドクソウ、ヒキオコシ、ヒゴクサ、ヒメレンゲ、ヒヨドリ
 バナ、フキ、フクオウソウ、フタリシズカ、ボタンヅル、
 ホドイモ、ミズヒキ、ミツバ、ミミナグサ、ミヤマキケマン、ミヤマナルコユリ、ミヤマハハソ、
 ムラサキケマン、モミジガサ、ヤブヘビイチゴ、ヤマオダマキ、ヤマカモジグサ、ヤマキツネノ
 ボタン、ヤマジノホトトギス、ヤマシロギク、ヤマゼリ、ヤマハタザオ、ヤワタソウ、ヨモギ。
 シダ類：イヌイワガネソウ、イヌシダ、イヌワラビ、キヨタキシダ、クジャクシダ、クマワラビ、
 スギナ、ゼンマイ、タキミシダ、タチクラマゴケ、ツヤナシイノデ、ニシキシダ、ハクモウイノ
 デ、ヒロハイヌワラビ、ヘビノネゴザ、ミヤマノキシノブ。
 外来種：オニウシノケグサ、カモガヤ、セイタカアワダチソウ、ハルガヤ、ヒメジョオン。



写真 V-306 ヤマオダマキ

(6) 大野瀬町上郷

大野瀬トンネルの旧道、矢作川沿いを調査。

木本層：ウツギ、ヤマグワ、ヤマアジサイ、アオキ、ヤマ
 ボウシ、タマアジサイ、イロハモミジ、コゴメウツギ、ヤ
 マウルシ、ミツバアケビ、カヤ、ヤマブキ、ハナイカダ、
 コアジサイ、エンコウカエデ、コウヤミズキ、フカギレオ
 オモミジ、マダケ、ホオノキ、マタタビ、アブラチャン、
 ガマズミ、コナラ、コハウチワカエデ、コマユミ、シロモ
 ジ、ツルウメモドキ、ニガイチゴ、ノイバラ、モミジイチ
 ゴ。



写真 V-307 大野瀬トンネル

草本層：モミジガサ、オオバコ、ムラサキケマン、ウマノアシガタ、ミズヒキ、ミツバ、ハコベ、
 ノコンギク、アカソ、アカネ、カワチブシ、タチツボスミレ、ミツバツチグリ、タチシオデ、ヌ
 スビトハギ、シラネセンキュウ、ナガバノスミレサイシン、トリアシショウマ、ノブキ、トチバ
 ニンジン、イヌショウマ、マムシグサ、アマチャヅル、ウバユリ、ヤブミョウガ、ホタルブクロ、
 ツリフネソウ、ヤワタソウ、サラシナショウマ、オオバギボウシ、シオデ、フクオウソウ、サワ
 ギク、アカネ、アキカラマツ、アキノタムラソウ、アズマヤマアザミ、イタドリ、イヌナズナ、
 イワニガナ、オトコエシ、カキドオシ、カニツリグサ、キンミズヒキ、クサヨシ、クズ、ゲンノ
 ショウコ、コアカソ、コボタンヅル、シシウド、ススキ、スズメノヤリ、ツボスミレ、ツルニン
 ジン、トウバナ、トボシガラ、ナガハグサ、ネコハギ、マスクサ、ミゾソバ、ミミナグサ、ミヤ
 コザサ、ムラサキサギゴケ、ヤエムグラ、ヤブガラシ、ヤブラン、ヤマノイモ、ヤマハタザオ、
 ヨツバムグラ、ヨモギ。

シダ類：キヨタキシダ、ゼンマイ、クジャクシダ、イノデ、シシガシラ、イヌワラビ、ワラビ、
 ヘビノネゴザ。

外来種：ハルジョオン、オニウシノケグサ、アカツメクサ、オニノゲシ、シロツメクサ、タチイヌ

ノフグリ、ヒメオドリコソウ、ヒロハギシギシ。

(7) 大野瀬町、子持ち桂の谷

国道 153 号線で大野瀬トンネルの手前 1km ほどの所に「子持ち桂」の案内板がある。農道に入り溪流が入り口でここからカツラまでを調査。稲武地区の中でも種の多さで 1, 2 を争うほどの場所。ここにしか無い種もあって保護が必要、カツラの廻りを整備するのも良いが、外から持ち込んだ木を植えるのは止めなければならない。今回ここでヤマブドウを発見した。今まで豊田市には無いとされていた。もう一か所小田木町でも発見している。

木本層：アイグロマツ、アカシデ、アカマツ、アケビ、アブラチャン、アワブキ、イイギリ、イタヤカエデ、イトマキイタヤ、イヌガヤ、イロハモミジ、ツリガネツツジ、ウツギ、ウリカエデ、ウリノキ、ウワミズザクラ、エゴノキ、エビガライチゴ、エンコウカエデ、オオバヤシャブシ、オニグルミ、カツラ、キブシ、クマイチゴ、ケヤキ、コアシサイ、コクサギ、コゴメウツギ、コシアブラ、コボタンヅル、サルトリイバラ、サルナシ、サワシバ、サンショウ、シシウド、シロモジ、スギ、タマアジサイ、タラノキ、ダンコウバイ、チャ、ツクバネウツギ、ツノハシバミ、ツリバナ、ツルウメモドキ、ツルマサキ、トチノキ、ナガバノモミジイチゴ、ナワシロイチゴ、ニワトコ、ヌルデ、ノイバラ、フジ、ノブドウ、ハクウンボク、ハナイカダ、バイカウツギ、ヤマネコヤナギ、ヒノキ、ヒメウツギ、ヒメコウゾ、フカギレオオモミジ、フサザクラ、フジキ、マグワ、マタタビ、ミズキ、ミズメ、ミツバウツギ、コウヤミズキ、ミヤマハハソ、ムラサキシキブ、モミジイチゴ、ヤブウツギ、ヤブデマリ、ヤマアジサイ、ヤマウコギ、ヤマウルシ、ヤマグワ、チドリノキ、ヤマツツジ、ヤマハギ、ヤマハゼ、ヤマフジ、ヤマブキ、ヤマブドウ、リョウブ。

草本層：アカショウマ、アカネ、アカネスミレ、アキギリ、アキノタムラソウ、アズマヤマアザミ、イタドリ、イヌショウマ、イノコズチ、イブキノキケンショウマ、イワタバコ、ウバユリ、ウマノミツバ、エイザンスミレ、オオガンクビソウ、オオタネツケバナ、オカトラノオ、オトコエシ、オニタビラコ、オヤマボクチ、カキドオシ、カシワバハグマ、カニツリグサ、カラマツソウ、ガンクビソウ、キバナアキギリ、キバナノイカリソウ、ウマノアシガタ、キンミズヒキ、ギンバイソウ、クサアジサイ、クサスゲ、クワガタソウ、ケチヂミザサ、タガネソウ、ゲンノショウコ、コガネネコノメソウ、コブナグサ、コミヤマスミレ、サラシナショウマ、サワオトギリソウ、サワギク、シギンカラマツ、シュンラン、



写真 V-308 大野瀬町 子持ち桂



写真 V-309 ヤマブドウ



写真 V-310 セリバオウレン



写真 V-311 ハコネシロカネソウ

シヨウジョウバカマ, シラネセンキュウ, シンミズヒキ,
 スイバ, スズタケ, スズムシソウ, スルガテンナンショウ,
 セキヤノアキチョウジ, セリバオウレン, タガネソウ, タ
 ケニグサ, タチシオデ, タチドコロ, タニガワスゲ, タニ
 ギキョウ, タニタデ, タネツケバナ, チゴユリ, チダケサ
 シ, ツリフネソウ, ツルニンジン, トチバニンジン, トリ
 アシショウマ, ナガバノスミレサイシン, ナギナタコウジ
 ュ, ナルコユリ, ニリンソウ, ヌカボシソウ, ヌスビトハ



写真 V-312 レンゲショウマ

ギ, ネコノメソウ, ネビソウワバミソウ, ノブキ, ハエドクソウ, ハコネシロカネソウ, ハシカ
 グサ, ヒキオコシ, ヒメウワバミソウ, ヒメカンスゲ, ヒメヤブラン, ヒロハコンロンソウ, フ
 シグロセンノウ, フタバムグラ, フタリシズカ, ホウチャクソウ, ホタルブクロ, マツカゼソウ,
 ミカワチャルメルソウ, ミズタマソウ, ミズヒキ, ミツバ, ミツバツチグリ, ミドリハコベ, ミ
 ミナグサ, ミヤコザサ, ミヤマキケマン, メヤブマオ, モミジガサ, ヤブカンゾウ, ヤブタバ
 コ, ヤブマオ, ヤブラン, ヤマオオイトスゲ, ヤマカモジグサ, ヤマキツネノボタン, ヤマシロ
 ギク, ヤマジノホトトギス, ヤマネコノメソウ, ヤマハタザオ, ヤマルリソウ, ヤワタソウ, ユ
 ウガギク, ユリワサビ, ヨツバムグラ, ヨモギ, ラショウモンカズラ, レンゲショウマ.

シダ類: イヌイワガネソウ, イヌガンソク, イヌシダ, イヌワラビ, イノデ, イワガネソウ, イ
 ワガネゼンマイ, オオヒメワラビ, オオトラノオ, オクマワラビ, カタイノデ, キヨタキシダ,
 クジャクシダ, クマワラビ, クラガリシダ, ゲジゲジシダ, サイゴクイノデ, シケシダ, シシガ
 シラ, ジュウモンジシダ, スギナ, ゼンマイ, ツヤナシイノデ, トウゲシバ, ナンゴクナライシ
 ダ, ハクモウイノデ, ヒロハイヌワラビ, ヒロハヒメワラビ, フユノハナワラビ, ヘビノネゴザ,
 ヤブソテツ, ヤマイヌワラビ, ヤマヤブソテツ, リョウメンシダ, ワラビ.

外来種: オニウシノケグサ, クロバナエンジュ, シロツメクサ, セイタカアワダチソウ, セイヨ
 ウタンポポ, ハルガヤ, ヒメジョオン, ヒメスイバ, メマツヨイグサ.

これだけ山奥となるとさすがに外来種は少ない。植林されたスギは間伐されていないので、林
 の中は荒れている。自然倒木が多く、倒れたスギが谷に横たわり、道がふさがれている場所もあ
 る。

(8) 面ノ木原生林

木本層: アオジクスノキ, アオダモ, アカマツ, アクシバ,
 アケビ, アサノハカエデ, アセビ, アブラチャン, イタヤ
 カエデ, イヌコリヤナギ, イヌシデ, イヌブナ, イボタノ
 キ, イワガラミ, ウスゲクロモジ, ウスノキ, ウツギ, ウ
 リカエデ, ウリハダカエデ, ウワミズザクラ, エゴノキ,
 オオイタヤメイゲツ, オオカメノキ, オオミヤマガマズミ,
 オオモミジ, オニツルウメモドキ, オノエヤナギ, カナク
 ギノキ, ガマズミ, カヤ, キハダ, クマシデ, クロビイタ



写真 V-313 原生林のバイケイソウ

ヤ, クロモジ, ケカマツカ, ケナシアオハダ, コアジサイ, コクサギ, コゴメウツギ, コハウチ
 ワカエデ, コハクウンボク, コマユミ, コヤマイボタ, サルトリイバラ, サルナシ, サワグルミ,
 サワシバ, サワダツ, サワラ, サンショウ, シナノキ, シロモジ, タカクマヒキオコシ, タンナ

サワフタギ, チドリノキ, ツクバネウツギ, ツタウルシ,
ツリガネツツジ, ツリバナ, ツルアジサイ, ツルウメモド
キ, ツルシキミ, トチノキ, ナガバノコウヤボウキ, ナツ
ツバキ, ニガイチゴ, ニシキギ, ニワトコ, ノリウツギ,
ハイイヌツゲ, バイカツツジ, ハリギリ, ヒナウチワカエ
デ, フカギレオオモミジ, フジキ, ブナ, ホオノキ, ホソ
エカエデ, マユミ, マルバアオダモ, ヒトツバカエデ, ミ
ズキ, ミズナラ, ミツバアケビ, ミツバツツジ, ミヤマガ
マズミ, ミヤマハハソ, ムラサキシキブ, メギ, メグスリ
ノキ, モミ, モミジイチゴ, ヤブウツギ, ヤブデマリ, ヤ
マアジサイ, ヤマネコヤナギ, ヤマツツジ, ヤマボウシ,
リョウブ.

草本層: アオバスケ, アオホオズキ, アカショウマ, アカ
ソ, アカバナ, アキノキリンソウ, イタドリ, イトスゲ,
イヌワラビ, イワセントウソウ, イワニガナ, ウシノケグ
サ, ウシミツバ, ウバユリ, オオバギボウシ, オオバコ,
オカトラノオ, オククルマムグラ, オクモミジハグマ, オ
タカラコウ, オトコエシ, オトコヨウゾメ, オヤマボクチ,
カワチブシ, キヌタソウ, キンミズヒキ, ギンリョウソウ,
ククルマムグラ, クワガタソウ, ゲンノショウコ, コアカソ,
コガネネコノメソウ, コケイラン, コチャルメルソウ, コ
フウロ, サワハコベ, シコクスミレ, シシウド, シラネセ
ンキュウ, スイバ, スズカアザミ, ススキ, スズタケ, ス
ルガテンナンショウ, セキヤノアキチョウジ, ダイコンソ
ウ, タチカメバソウ, タチキランソウ, タチツボスミレ,
タニギキョウ, チゴユリ, チダケサシ, ツクバネソウ, ツ
ボスミレ, ツルニンジン, テバコモミジガサ, トウゴクサ
バナノオ, トボシガラ, トリアシショウマ, ナギナタコウジ
ュ, ナルコユリ, ニガナ, ネコノメソウ, ノゲヌカスゲ,
ノコンギク, ノブキ, ノミノフスマ, バアソブ, バイケイ
ソウ, ハンショウヅル, ヒメヨモギ, ヒヨドリバナ, フキ,
フクオウソウ, フタリシズカ, フモトスミレ, ホソバヒカ
ガスゲ, ホタルブクロ, ホトトギス, マイヅルソウ, マツ
ムシソウ, マムシグサ, マルバイチヤクソウ, マルバワタ
ムキアザミ, ミズタマソウ, ミズヒキ, ミツバフウロ, ミ
ミナグサ, ミヤマママコナ, ムカゴイラクサ, ムラサキシ
ギゴケ, メアオスゲ, モミジガサ, ヤクシソウ, ヤマウツ
ボ, ヤマオダマキ, ヤマシロギク, ユウガギク, ユキザサ,
ユリワサビ, ヨツバムグラ, ヨモギ, ワタムキアザミ.

シダ類: イヌワラビ, オオクジャクシダ, オオクマワラビ, クマワラビ, サイゴクイノデ, ジュ



写真 V-314 ツリガネツツジ



写真 V-315 マイヅルソウ



写真 V-316 ヤマウツボ



写真 V-317 トウゴクサバナノオ



写真 V-318 ツクバネソウ

ウモンジシダ， タチクラマゴケ， ナンゴクナライシダ， ハクモウイノデ， ハリガネワラビ， ヒロハイヌワラビ， ヘビノネゴザ， ミヤマイタチシダ。

外来種：アカツメクサ， オニウシノケグサ， シロツメクサ， セイヨウタンポポ， ハルガヤ， ハルジオン， ヒメジョオン， ヒメスイバ， メマツヨイグサ。

(9) 井山川溪谷

木本層：アオダモ， アサノハカエデ， アセビ， アブラチャン， イタヤカエデ， イヌコリヤナギ， イヌシデ， イヌブナ， イボタノキ， イワガラミ， ツリガネツツジ， ウスノキ， ウリハダカエデ， オオイタヤメイゲツ， オオカメノキ， オオバアサガラ， オオミヤマガマズミ， オニツルウメモドキ， オノエヤナギ， オヒョウ， カナクギノキ， ガマズミ， カワヤナギ， キハダ， キブシ， クサギ， クマシデ， クリ， クロビイタヤ， クロモジ， ケナシアオハダ， コクサギ， コゴメウツギ， コシアブラ， コハウチワカエデ， コハクウンボク， コバノガマズミ， コミネカエデ， サルナシ， サワグルミ， サワシバ， サワダツ， サワラ， シナノキ， シラキ， シロモジ， タンナサワフタギ， ツガ， ツクバネウツギ， イヌツゲ， ツタ， ツタウルシ， ツノハシバミ， ツリバナ， ツルアジサイ， ツルウメモドキ， ツルシキミ， トチノキ， ナツツバキ， ニシキウツギ， ニワトコ， ハイイヌツゲ， ハウチワカエデ， ハリギリ， ヒナウチワカエデ， ヒメウツギ， ブナ， マサキ， マユミ， マルバアオダモ， マルバカエデ， ミズキ， ミズナラ， ミズメ， ミヤマイボタ， ミヤマハハソ， ムラサキシキブ， メギ， モミ， ヤブウツギ， ヤブデマリ， ヤマアジサイ， ヤマウルシ， ヤマテリハノイバラ， ヤマネコヤナギ， ヤマボウシ， リョウブ。

草本層：アカソ， アヤメ， イタドリ， イチヤクソウ， イワニガナ， ウド， ウバユリ， ウマノミツバ， ミヤマムグラ， オオバギホウシ， オオモミジガサ， オククルマムグラ， オクモミジハグマ， オタカラコウ， カワチブシ， ギンリョウソウ， クルマムグラ， ゲンノショウコ， コカンスゲ， コケイラン， コチャルメル， ゴマナ， サワハコベ， シコクスミレ， シシウド， シラコスゲ， シラネセンキュウ， シロバナハナニガナ， スズカアザミ， ススキ， スズタケ， セキヤノアキチョウジ， ダイコンソウ， タカクマヒキオコシ， タチカメバソウ， タニソバ， チゴユリ， ツクバネソウ， ツルネコノメソウ， ツルリンドウ， テバコモミジガサ， ドクダミ， シコクママコナ， トチパニンジン， トボシガラ， トリアシショウマ， ナルコユリ， ニガナ， ヌカスゲ， ヌカボシソウ， ネズミガヤ， ノブキ， ノブドウ， バイケイソウ， ハエドクソウ， ハナニガナ， バライチゴ， ヒメレンゲ， ヒロハコンロンソウ， フキ， フクオウソウ，



写真 V-319 オオバアサガラ



写真 V-320 オヒョウ



写真 V-321 オオモミジガサ



写真 V-322 シコクスミレ

フタリシズカ, マムシグサ, ミツバ, ミヤマエンレイソウ, ムカゴイラクサ, ムラサキニガナ, モミジガサ, ヤブヘビイチゴ, ヤマカモジグサ, ヤマトウバナ, ヤマハタザオ, ワタムキアザミ.
シダ類: イヌワラビ, オシダ, コウヤワラビ, シラネワラビ, スギナ, トウゲシバ, ヒロハイヌワラビ, ヘビノネゴザ, ホソバナライシダ, マンネンズギ, ミヤマイタチシダ, ミヤマクマワラビ, ヤマイヌワラビ, ヤワラシダ.

外来種: アカツメクサ, ハルガヤ, ヒメジョオン, ヒメスイバ, フランスギク.

(10) 月ヶ平林道

県道 80 号線は井山川に沿っている. 前項ではその溪谷を調査し, 深山の植相に出会った. 県道 80 号線の途中から山越えて野入町に抜ける険しい道がある. その途中に月ヶ平 (938m) がある. この道を調査した.

木本層: アオキ, アブラチャン, イヌツゲ, イボタノキ, ウツギ, ウメモドキ, ウリカエデ, ウリハダカエデ, ウワミズザクラ, カスミザクラ, キツネヤナギ, キブシ, クサギ, クリ, ケケンポナシ, ケヤキ, コウゾ, コシアブラ, コナラ, コマユミ, サルナシ, サンショウ, シラキ, シロモジ, スイカズラ, スギ, ソヨゴ, タマアジサイ, タラノキ, ダンコウバイ, チャ, ツタ, ツタウルシ, ネジキ, ノダフジ, ノブドウ, ノリウツギ, ハナイカダ, ヒノキ, マタタビ, ミズキ, ミツバアケビ, ミツバウツギ, ムラサキシキブ, モミジイチゴ, ヤブウツギ, ヤマアジサイ, ヤマウルシ, ヤマグリ, ヤマザクラ, ヤマトツジ, ヤマハギ.

草本層: アカソ, アカネ, アキカラマツ, アキノキリンソウ, アキノタムラソウ, アマチャヅル, イタドリ, イノコズチ, ウバユリ, ウマノミツバ, オオキツネノカミソリ, オカトラノオ, オトコエシ, カタバミ, キッコウハグマ, キンミズヒキ, クサアジサイ, クズ, クモキリソウ, ゲンノショウコ, コナスビ, コモチマンネングサ, サワギク, シシウド, シラネセンキュウ, シロイトスゲ, スイカズラ, ススキ, タガネソウ, タケニグサ, タニギキョウ, ツユクサ, ツリガネニンジン, ツリフネソウ, ツルニンジン, ツルヨシ, トボシガラ, トリアシショウマ, ドジョウツナギ, ナギナタコウジュ, ニガナ, ヌスビトハギ, ネザサ, ノア

ザミ, ノギリ, ノコンギク, ノブキ, ハエドクソウ, ヒメアシボソ, ヒメドコロ, ヒメヨモギ, ヒヨドリバナ, フタリシズカ, ヘクソカズラ, ホタルブクロ, ボタンヅル, マムシグサ, マルバイチヤクソウ, マルバノホロシ, ミズヒキ, ミゾソバ, ミツバ, ミミナグサ, ミヤマササガヤ, ムラサキケマン, ムラサキサギゴケ, モミジガサ, ヤブカンゾウ, ヤブヘビイチゴ, ヤマオダマキ, ヤマカモジグサ, ヤマハタザオ, ユウガギク, ヨモギ.

シダ類: イノデ, オオヒメワラビ, キヨタキシダ, クマワラビ, クラマゴケ, サイゴクイノデ, シシガシラ, ジュウモンジシダ, ゼンマイ, ツヤナシイノデ, ハクモウイノデ, ヒカゲノカズラ,



写真 V-323 サルナシ



写真 V-324 オオキツネノカミソリ



写真 V-325 ジュウモンジシダ

ヒロハイヌワラビ，ベニシダ，マンネンスギ，ヤマヤブソテツ，リョウメンシダ，ワラビ。
 外来種：セイタカアワダチソウ，ハルガヤ。

(11) 野入町

国道 153 号線で野入町に入り町中を抜けた大きな曲りか所に旧道がある。ここが昔の中馬街道で杣路山を越える入り口である。ここから山を越えると根羽村の万馬瀬に出る。現在の国道は山を迂回して，矢作川沿いに大野瀬から月瀬に出て根羽村に入っている。この旧道一帯を調査しここではヤマシャクヤクとギンバイソウを確認した。

野入町信号交差点の次の道を右に曲がると，木地川に沿って林道があり，面ノ木に続いている。この林道を 2 番目砂防堰まで調査した。

木本層：アカシデ，アカマツ，アケビ，アセビ，アブラチャン，イヌツゲ，イロハモミジ，イワガラミ，ウスノキ，ウツギ，ウメモドキ，ウリカエデ，ウワミズザクラ，エゴノキ，カスミザクラ，クマイチゴ，クリ，ケカマツカ，コアジサイ，コナラ，サイゴクキツネヤナギ，サワダツ，サワラ，シロモジ，スギ，チャ，ツクバネウツギ，ツノハシバミ，ツリバナ，ナガバノモミジイチゴ，ナワシロイチゴ，ニガイチゴ，ネジキ，フジ，ノリウツギ，ハチク，ヒナウチワカエデ，ヒノキ，ヒメウツギ，フカギレオオモミジ，フサザクラ，ホオノキ，マグワ，マタタビ，マツブサ，マンサク，ミズキ，ミツバアケビ，ミツバツツジ，ミヤマイボタ，コウヤミズキ，ムラサキシキブ，メギ，モウソウチク，モチツツジ，モミジイチゴ，ヤシャブシ，ヤブウツギ，ヤブデマリ，ヤマアジサイ，ヤマウコギ，ヤマウルシ，ヤマザクラ，ヤマツツジ，ヤマテリハノイバラ，リョウブ。

草本層：アオイスミレ，アカソ，アカネ，アカバナ，アキカラマツ，アキノキリンソウ，アケボノソウ，アブラガヤ，アブラススキ，アマドコロ，イヌナズナ，イワニガナ，ウツボグサ，ウワバミソウ，オオバコ，オオバタネツケバナ，オクモミジハグマ，オニタビラコ，オヤマボクチ，カキドオシ，カスマグサ，カナムグラ，ガマ，カラスノエンドウ，カラムシ，カリヤス，カワラナデシコ，ガンクビソウ，キツネガヤ，キュウリグサ，キランソウ，キリンソウ，キンミズヒキ，クサノオウ，ゲンノショウコ，コガネネコノメソウ，コチャルメルソウ，コハコベ，コモチマンネングサ，ササガヤ，サラシナショウマ，サワギク，シコクスミレ，シシウド，シャガ，シュウブソウ，シラネセンキュウ，



写真 V-326 ギンバイソウ



写真 V-327 ヤマシャクヤク



写真 V-328 ツノハシバミ



写真 V-329 トチパニンジン



写真 V-330 ヤブウツギ

スイカズラ、スイバ、スズカアザミ、ススキ、スズタケ、スズメノエンドウ、スズメノカタビラ、スズメノヤリ、スルガテンナンショウ、センボンヤリ、ダイコンソウ、タガネソウ、タケニグサ、タチツボスミレ、タチドコロ、タニギキョウ、タネツケバナ、チダケサシ、ツボスミレ、ツリガネニンジン、ツルニンジン、トウノウネコノメ、トウバナ、ドクゼリ、トチバニンジン、ナズナ、ナルコスゲ、ニガナ、ニラ、ヌカスゲ、ヌカボシソウ、ノギラン、ノミノフスマ、バイケイソウ、ハハコグサ、ヒメカンスゲ、ヒメノガリヤス、ヒメヘビイチゴ、ヒメヨモギ、ヒロハコンロンソウ、フキ、フデリンドウ、フモトスミレ、ヘビイチゴ、ホタルブクロ、ボタンヅル、ホトケノザ、ミズヒキ、ミゾイチゴツナギ、ミゾソバ、ミツバ、ミツバツチグリ、ミミナグサ、ミヤコザサ、ムラサキサギゴケ、ヤエムグラ、ヤクシソウ、ヤブカンゾウ、ヤマキツネノボタン、ヤマゼリ、ヤマネコノメソウ、ヤマハタザオ、ヤマハハコ、ヤマホタルブクロ、ヤワタソウ、ユキノシタ、ヨツバムグラ、ヨモギ、ワサビ。

シダ類：イヌガンソク、イヌシダ、イヌワラビ、イノモトソウ、クジャクシダ、クマワラビ、ゲジゲジシダ、シシガシラ、シノブ、ゼンマイ、ツヤナシイノデ、トラノオシダ、ヘビノネゴザ、ミヤマノキシノブ。

外来種：アカツメクサ、オニウシノケグサ、オランダミミナグサ、キツネガヤ、シナダレスズメガヤ、シロツメクサ、セイヨウタンポポ、タカサゴユリ、ツルニチニチソウ、ハルガヤ、ヒメオドリコソウ、ヒメジョオン、ヒメスイバ、ヒロハギシギシ、フランスギク、ムシトリナデシコ、メマツヨイグサ、メリケンカルカヤ、ヨウシュヤマゴボウ。



写真 V-331 コガネネコノメソウ



写真 V-332 ワサビ

(12) 押山町

国道 257 号線を夏焼町の東尾から押山町の川手まで、名倉川に沿って調査。

木本層：アオキ、アオツツラフジ、アオハダ、アカシデ、アカメガシワ、アケビ、アブラチャン、アワブキ、イイギリ、イヌガヤ、イヌコリヤナギ、イヌザクラ、イヌシデ、イヌツゲ、イボタノキ、イロハモミジ、ウコギ、ウツギ、ウリカエデ、ウリノキ、ウルシ、ウワミズザクラ、エゴノキ、エノキ、エンコウカエデ、オトコヨウゾメ、オニグルミ、オノエヤナギ、カキ、カシワ、カスミザクラ、カツラ、カナメモチ、ガマズミ、カヤ、カワヤナギ、キツタ、キハダ、キブシ、キレハヤマグワ、クサギ、クマイチゴ、クマノミズキ、クリ、クロウメモドキ、クロマツ、ケケンボナシ、ケヤキ、コアジサイ、コクサギ、コゴメウツギ、コシアブラ、コジキイチゴ、コナラ、コハウチワカエデ、コバ



写真 V-333 イタヤカエデ



写真 V-334 フジ

ノガマズミ, コマツナギ, コマユミ, サルトリイバラ, サ
 ルナシ, サンショウ, シラカシ, シラキ, シロモジ, スギ,
 ソメイヨシノ, タマアジサイ, タラノキ, ダンコウバイ,
 タンナサワフタギ, チドリノキ, チャ, ツクバネ, ツクバ
 ネウツギ, ツタ, ツタウルシ, ツノハシバミ, ツリバナ,
 ツルウメモドキ, トネリコ, ナガバノモミジイチゴ, ナワ
 シロイチゴ, ナンテン, ナンテンハギ, ニワトコ, ヌルデ,
 ネコヤナギ, ネジキ, ネムノキ, ノイバラ, フジ, バイカ
 ウツギ, ハチク, ハナイカダ, ハナノキ, ヒノキ, ヒメウ
 ツギ, ヒメコウゾ, フカギレオオモミジ, フサザクラ, フ
 ジカンゾウ, ホオノキ, マグワ, マダケ, マタタビ, マル
 バアオダモ, ミズキ, ミズナラ, ミツバウツギ, ミヤマガ
 マズミ, ヤマネコヤナギ, ミヤマトサミズキ, ミヤマハハ
 ソ, ムラサキシキブ, メダケ, モウソウチク, モトゲイタ
 ヤ, モミジイチゴ, ヤダケ, ヤブウツギ, ヤブデマリ, ヤ
 マアサクラザンショウ, ヤマアジサイ, ヤマウルシ, ヤマ
 グワ, ヤマザクラ, ヤマツツジ, ヤマテリハノイバラ, ヤ
 マナシ, ヤマブキ, ヤマフジ, ユズリハ.

草本層: アオカモジグサ, アオカラムシ, アオスゲ, アカ
 ショウマ, アカソ, アカネ, アカネスミレ, アキカラマツ,
 アキノキリンソウ, アキノタムラソウ, アキノノゲシ, ア
 ケボノソウ, アブラガヤ, アマチャヅル, アヤメ, イグサ,
 イタチハギ, イタドリ, イチゴツナギ, イチヤクソウ, イ
 ヌガラシ, イヌショウマ, ウシハコベ, ウスゲタマブキ,

ウド, ウバユリ, ウマノミツバ, エイザンスミレ, エゾタチカタバミ, オオイトスゲ, オオジシ
 バリ, オオバコ, オオバタネツケバナ, オカトラノオ, オククルマムグラ, オクモミジハグマ,
 オトコエシ, オニタビラコ, オニドコロ, カキドオシ, カゼクサ, カタバミ, カナムグラ, カニ
 ツリグサ, カモジグサ, カラハナソウ, カラムシ, カリヤス, カワラナデシコ, キツネアザミ,
 キツネノボタン, キュウリグサ, サンカクヅル, キランソウ, ギンバイソウ, キンボウゲ, キン
 ミズヒキ, クサアジサイ, クサイチゴ, ドクゼリ, クサノオウ, クサヨシ, クズ, クルマバハグ
 マ, クルマムグラ, ゲンノショウコ, コアカソ, コウゾリナ, コナスビ, コハコベ, コボタンヅ
 ル, コモチマンネングサ, ササユリ, サラシナショウマ, サワギク, サワハコベ, シオデ, シシ
 ウド, シバ, シヤガ, ジャニンジン, シュウブソウ, シラコスゲ, シラネセンキュウ, シラヤ
 マギク, シロバナイナモリソウ, シロバナタチツボスミレ, シンミズヒキ, スイカズラ, スイバ,
 スズカアザミ, ススキ, スズタケ, スズメノエンドウ, スズメノカタビラ, スズメノテッポウ,
 スズメノヤリ, スミレ, スミレサイシン, スルガテンナンショウ, セキヤノアキチョウジ, セリ,
 センニンソウ, ソバナ, ダイコンソウ, タガネソウ, タケニグサ, タチシオデ, タチツボスミレ,
 タニギキョウ, タネツケバナ, チガヤ, チゴユリ, ケチジミザサ, チチコグサ, ツボスミレ, ツ
 チアケビ, ツユクサ, ツリフネソウ, ツルニンジン, ツルヨシ, ツルリンドウ, テバコモミジガ
 サ, トウノウネコノメ, トウバナ, ドクダミ, ドジョウツナギ, トチバニンジン, トボシガラ,



写真 V-335 トネリコ



写真 V-336 ヤマルリソウ



写真 V-337 ヒロハコンロンソウ

トモエソウ，トリアシショウマ，トンボソウ，ナガハグサ，ナギナタコウジュ，ナルコスゲ，ナルコユリ，ニガクサ，ニガナ，ヌカボ，ヌカボシソウ，ヌスビトハギ，ネザサ，ノアザミ，ノコンギク，ノハナショウブ，ノビル，ノミノツヅリ，ノミノフスマ，ハハコグサ，ヒゴクサ，ヒナタイノコズチ，ヒメウワバミソウ，ヒメヤブラン，ヒヨドリバナ，ヒロハコンロンソウ，フウロケマン，フキ，フクオウソウ，フシグロセンノウ，フタバムグラ，フタリシズカ，フモトスマレ，ヘクソカズラ，ヘビイチゴ，ホオズキ，ホタルブクロ，ボタンヅル，マスクサ，マツカゼソウ，ママコノシリヌグイ，マルバワタムキアザミ，ミカワチャルメルソウ，ミズタマソウ，ミズヒキ，ミゾイチゴツナギ，ミゾソバ，ミツバ，ミツバツチグリ，ミミナグサ，ミヤコザサ，ミヤマキケマン，ミヤマシラスゲ，ミヤマナルコユリ，ムカゴイラクサ，ムラサキケマン，ムラサキサギゴケ，メヤブマオ，モミジガサ，ヤエムグラ，ヤグルマソウ，ヤブガラシ，ヤブカンゾウ，ヤブジラミ，ヤブタデ，ヤブニンジン，ヤブヘビイチゴ，ヤブマメ，ヤブミョウガ，ヤブラン，ヤマザトマムシグサ，ヤマシロギク，ヤマスズメノヒエ，ヤマゼリ，ヤマトウバナ，ヤマネコノメソウ，ヤマノイモ，ヤマハタザオ，ヤマハッカ，ヤマハハコ，ヤマホタルブクロ，ヤマホトトギス，ヤマルリソウ，ヤワタソウ，ユウガギク，ヨシ，ヨツバムグラ，ヨモギ。

シダ類：イヌガンソク，イヌシダ，イヌワラビ，オオイヌワラビ，オオハナワラビ，オオベニシダ，クジャクシダ，クマワラビ，クラガリシダ，クラマゴケ，ゲジゲジシダ，コウヤワラビ，シケチシダ，ジュウモンジシダ，ゼンマイ，ツヤナシイノデ，ヒロハイヌワラビ，ヘビノネゴザ，ヤシャゼンマイ，ヤマイタチシダ，ヤマヤブソテツ，リョウメンシダ，ワラビ。

外来種：アカツメクサ，クロバナエンジュ，オランダミミナグサ，カモガヤ，コメツブツメクサ，シロツメクサ，セイタカアワダチソウ，セイヨウタンポポ，セイヨウノコギリソウ，タチイヌノフグリ，ツルギキョウ，ナガバギシギシ，ハルガヤ，ハルジオン，ヒメオドリコソウ，ヒメジョオン，ヒメスイバ，メマツヨイグサ，メリケンカルカヤ，ヨウシュヤマゴボウ。

(13) 黒田町

国道 153 号線の小田木信号を黒田の方に曲がり，黒田ダムへ向かうとタムシバの群落がある．稲武地区の植生調査のタムシバ・ミツバツツジ群落である．山の斜面にタムシバの大木が十数本生え，下草としてミツバツツジが群生している．春の時期には白い花が山一面に咲くが，午前 10 時から午後 3 時頃までである．更に進むと右側にイイギリの大木があつて，秋に真っ赤な実を房状にぶら下げる．斜面の下から生えているので，道路の高さがちょうど実の高



写真 V-338 タカドヤ湿地

さになって，すばらしい景観に出会える．黒田ダムと反対の道をたどると，タカドヤ湿地に至る．タカドヤ湿地の草本植物 ヤマドリゼンマイ，レンゲツツジ，クサレダマ，ヒメシロネ，サワギキョウ，オタカラコウ，ヒロハドジョウツツナギ，ヤチカワズスゲ，マツバスゲ，マメスゲ，シカクイ，チダケサシ，ミソハギ，ノハナショウブ，カキツバタ，ドクゼリ，ムカゴニンジン，ホソバノヨツバムグラ，キセルアザミ，ヒメナミキ，ササユリ，ミヤマナルコユリ，ネズミノオ，ヌカキビ，アシボソ，ヤノネグサ，アキメヒシバ，シオデ，ミゾソバ，ツリフネソウ，ヒルムシロ．



写真 V-339 イイギリ



写真 V-340 レンゲツツジ

(14) 小田木の旧発電所から黒田ダムまで

木本層：アオキ、アオツツラフジ、アオハダ、アカシデ、アケビ、アブラチャン、イヌガヤ、イヌツゲ、イボタノキ、ウスノキ、ウツギ、ウメモドキ、ウラジロノキ、ウリカエデ、ウワミズザクラ、エゴノキ、オノエヤナギ、カシワ、カスミザクラ、キツタ、キブシ、クマイチゴ、クマヤナギ、クリ、クロウメモドキ、クロモジ、ケケンポナシ、ケヤキ、コアジサイ、コウヤボウキ、コクサギ、コシアブラ、コナラ、コバノガマズミ、コマツナギ、サイゴクキツネヤナギ、サツキ、サルナシ、サワシバ、サワダツ、サワフタギ、サワラ、サンショウ、シラカシ、シラキ、シロモジ、スギ、タマアジサイ、タラノキ、タンナサワフタギ、ツクバネウツギ、ツタ、ツタウルシ、ツノハシバミ、ツリバナ、ナガバノコウヤボウキ、ナガバノモミジイチゴ、ナンテン、ニガイチゴ、ニワトコ、ネムノキ、ノイバラ、フジ、ノリウツギ、バイカウツギ、バイカツツジ、ハウチワカエデ、ハクウンボク、ハチク、ハナイカダ、ヒサカキ、ヒノキ、ヒメコウゾ、ホオノキ、マサキ、マダケ、マツブサ、マルバアオダモ、マルバウツギ、マンサク、ミズナラ、ミツバアケビ、ミツバツツジ、ミヤコツツジ、コウヤミズキ、ムラサキシキブ、メギ、モチツツジ、モミ、モミジイチゴ、ヤブウツギ、ヤブコウジ、ヤブツバキ、ヤブデマリ、ヤマアジサイ、ヤマグラ、ヤマツツジ、ヤマテリハノイバラ、ヤマハギ。

草本層：アオマムシグサ、アカネ、アカバナ、アキカラマツ、アギスミレ、アキノキリンソウ、アキノタムラソウ、アヤメ、イタドリ、イチヤクソウ、ウシノケグサ、ウシハコベ、ウド、ウバユリ、ウワバミソウ、エナシヒゴクサ、エビヅル、オオバギボウシ、オオバタネツケバナ、オオバノトンボソウ、オオヨモギ、オカトラノオ、オククルマムグラ、オニタビラコ、オヤマボクチ、カキドオシ、カテンソウ、カニツリグサ、カモジグサ、カラスビシャク、カリ



写真 V-341 ヤチ坊主



写真 V-342 黒田ダムの堰堤



写真 V-343 ツルニンジン



写真 V-344 フシグロセンノウ

ヤス、ガンクビソウ、キッコウハグマ、キュウリグサ、キランソウ、キンポウゲ、キンミズヒキ、ギンリョウソウ、クサアジサイ、クサノオウ、クサヨシ、クズ、クモキリソウ、クマバハグマ、ゲンノショウコ、コアカソ、コカモメヅル、コカンスゲ、コナスビ、コボタンヅル、ゴマナ、コモチマンネングサ、ササユリ、サラシナショウマ、サワギク、シシウド、ジャノヒゲ、シュウブンソウ、ジュズスゲ、ショウジョウバカマ、シラコスゲ、シラネセンキュウ、シラヤマギク、スイカズラ、スイバ、スズカアザミ、ススキ、スズメノヤリ、セリ、センニンソウ、タガネソウ、タケニグサ、タチシオデ、タチドコロ、タニギキョウ、タマアジサイ、タマツリスゲ、ダイコンソウ、チゴユリ、ケチヂミザサ、チダケサシ、ツリガネニンジン、ツリフネソウ、ツルニンジン、ツルリンドウ、トウカイタンポポ、トウバナ、ドクゼリ、ドクダミ、トチバニンジン、トリアシショウマ、ナガハグサ、ナガバノスミレサイシン、ナギナタコウジュ、ナルコスゲ、ニガナ、ヌカボシソウ、ヌスビトハギ、ネコハギ、ネザサ、ノギラン、ノササゲ、ノビル、ノブキ、ノブドウ、ノミノフスマ、ハエドクソウ、ハハコグサ、ヒメカンスゲ、ヒメハギ、ヒメヤブラン、ヒヨドリジョウゴ、ヒヨドリバナ、ヒロハコンロンソウ、フウロケマン、フキ、フクオウソウ、フシグロセンノウ、フジウツギ、フタリシズカ、フモトスミレ、ヘクソカズラ、ホウチャクソウ、ホソバアキノノゲシ、ホタルブクロ、ボタンヅル、ホドイモ、マキノスミレ、マスクサ、マルバイチヤクソウ、ミズタマソウ、ミズヒキ、ミゾイチゴツナギ、ミゾソバ、ミツバ、ミツバツチグリ、ミミナグサ、ミヤマシラスゲ、ミヤマナルコユリ、ムカゴイラクサ、ムラサキケマン、ムラサキサギゴケ、ヤブカンゾウ、ヤブマオ、ヤブラン、ヤブレガサ、ヤマアゼスゲ、ヤマキツネノボタン、ヤマザトマムシグサ、ヤマジノホトトギス、ヤマシロギク、ヤマゼリ、ヤマトウバナ、ヤマノイモ、ヤマハタザオ、ヤマハッカ、ヤマホトトギス、ヨモギ、ワサビ。

シダ類：イヌガンソク、イヌシダ、イヌワラビ、オオイヌワラビ、オオベニシダ、キヨタキシダ、クラマゴケ、ゲジゲジシダ、サイゴクイノデ、サトメシダ、シケチシダ、シシガシラ、ジュウモンジシダ、ゼンマイ、ツヤナシイノデ、ハリガネワラビ、ヒカゲノカズラ、ヒメシダ、ヘビノネゴザ、ホソバトウゲシバ、ホソバナライシダ、ミヤマノキシノブ、ヤブソテツ、ヤマヤブソテツ、ヤワラシダ、リョウメンシダ、ワラビ。

外来種：アカツメクサ、イヌガラシ、オオイヌノフグリ、オニウシノケグサ、オランダミミナグサ、コマツヨイグサ、コメツブツメクサ、シロツメクサ、ナギナタガヤ、ヒメジョオン、ヨウシュヤマゴボウ。



写真 V-345 ギンリョウソウ



写真 V-346 ツリフネソウ



写真 V-347 フジウツギ

(15) 富永町

国道 153 号線の小田木を富永の方に曲がると、高いコンクリートブロックの土留め壁が左側に

続く．この壁にぶら下がり葉が垂れ下ってヤマブドウが生えている．豊田市にはヤマブドウは無いと言われていたが今回の調査で，大野瀬町の子持ち桂の上の道と富永町の2か所で確認した．



写真 V-348 ヤマブドウ

(16) おわりに

稲武地区は北部の矢作川沿いを除いてほとんどが山地であり植林されている．自然林は少ないが名倉川沿いの植物相やそこに流れ込む支流の井山川等，流域の自然林はすばらしい植物相を残している．野入町や大野瀬町は国道 153 号線から奥に入ると，植林された山の中に自然林が残っていて，絶滅危惧種等希少種を多数見つけることができる．植林地の整備がされていないため，植林地内の荒れが目立つ．地質が花崗岩でその風化によって出来た土質のため，急斜面の場所では自然崩壊により，立木が谷に倒れ込んでいるところもある．そのため貴重な植物が危険な状態にあるものも多数みられ，何らかの保全対策が必要と感じた．

9 豊田市の貴重な植物

貴重さについては、一般には珍しい、手に入らない、きれいな花を咲かせるなどが考えられるが、一旦希少種として公表すると途端になくなってしまうことがある。植物は移動ができないから開発で自生地が潰されるか、人の採取でなくなるなど時代を経る中で、今日までには人為的な行為で消滅させてしまっている経緯がある。

人為的に植物等を消滅させないために、希少種をあえてここに一覧表にして公表し、保護対象にしたい。その保護対象の基準については、2009年に出た愛知県版の「レッドデータブックあいち2009」、2000年の日本版の「改訂・日本の絶滅のおそれのあるレッドデータブック野生生物：植物Ⅰ（維管束植物）2000」等の絶滅危惧種を基準とした。今回、2015年1月に出された第三次レッドリスト「レッドリストあいち2015」を基に修正した。

現時点ではこの基準に、市内の植物の標本はもとより過去の文献にあたり調べてみた。それに標本があれば過去のものであれ、一番の証拠物件であるが市内には、この種であると立証できる標本数は極めて少ないのは残念である。

市内の絶滅危惧種の一覧は次の表 V-3 のとおりである。

表 V-3 愛知県レッドデータブックから見た植物（維管束植物）市内の生育状況

区分	標本数	標本と資料	旧市内	藤岡	小原	足助	下山	旭	稲武	愛知県
絶滅 (EX)	2	16	3	1	2	6	2	11	8	47
絶滅危惧 IA 類 (CR)	10	33	12	7	4	9	6	16	13	90
絶滅危惧 IB 類 (EN)	19	85	27	16	15	32	10	33	41	179
絶滅危惧 II 類 (VU)	23	106	37	29	19	47	18	47	54	183
小計	54	240	79	53	40	94	36	107	116	499
準絶滅危惧 (NT)	26	82	39	19	26	43	27	43	47	115
情報不足										3
合計	80	322	118	72	66	137	63	150	163	617
国リスト	11	20	15	13	9	15	15	14	11	25
県初	3	44	1	0	2	4	0	20	30	—
豊田市の配慮種	100	143	66	28	51	27	16	47	53	—

標本数は確実な数であり、小計で見ると 54 種が絶滅危惧種と見てよい。

「標本と資料」は、今回の調査で、目で見つけて拾い出した種で、絶滅 (EX) 種で見ると市内の「標本数」は 2 種であり、どの地区で採集したかは分からない。「標本と資料」での種数は 16 種あるが、旭では 16 種の中の 11 種、足助では 6 種というのは内訳であるから、地区別の種を合計した 16 種ではない。またここには標本の内訳数は記していない。

足助・稲武・旭地区は山地が多く、標高的に高いことで温帯性植物が多く絶滅危惧種数が多いことになる。

この表から市内には絶滅危惧種「標本と資料」のように 240 種あり、県の 499 種の約半分くらいが生育していたことになる。標本で残っているのが約 4 分の 1 の 54 種で、文献に記載の種であり、それ以降絶滅したと思われる種であろうから 240 種の確実性が少ない。他市との比較は下記に記す。

絶滅 (EX) 種の中では、ヒシモドキ (オオバコ科)、ノコギリソウ (キク科) の 2 種が標本として残っている。しかし、ヒシモドキの生育池は人工的に作られた池で、ほかに希少な種も見られるので、誰かが希少種を残そうと池に入れたのでないか、疑問が残る。また、ノコギリソウの標本は、植栽

種でノコギリソウを知ってもらうことで標本にしたものである。

豊田市配慮種は、任意に注目したい種を選んだもので、今後市民がお互いに注目し、保護したい種で143種ある。そのうち100種しか標本は残されていないが確実にある種である。



写真 V-349 イシモチソウ
愛知県 (EN), 環境省 (NT)



写真 V-350 サギソウ
愛知県 (VU), 環境省 (NT)

標本を基にした県内の絶滅危惧種の状況は、表 V-4 のとおりである。

表 V-4 標本を基にした県内の市の絶滅危惧種

区分	豊田	安城	瀬戸	稲武区	新城	豊橋	県
絶滅 (EX)	2	0	1	1			47
絶滅危惧 IA 類 (CR)	10	3	2	3			90
絶滅危惧 IB 類 (EN)	19	2	16	24			179
絶滅危惧 II 類 (VU)	23	5	38	41			183
小計	54	10	57	69			452
準絶滅危惧 (NT)	26	9	30	27			115
情報不足 (DD)							3
国リスト	11	12	15	7			25
合計	91	31	102	103	116	198	642

県内の標本を基に絶滅危惧種が一覧表にできる市等は、安城市、瀬戸市、北設楽の稲武地区で、その数値しか手元にはない。新城市、豊橋市の絶滅危惧種は合計数だけある。他市の数値は今回の「レッドリストあいち 2015」に照らしたのではなく、過去の 2009 年版の数値であるから多少のズレはあろう。

新城市と豊橋市の絶滅危惧種の合計数は安城市史にあるが、内容の種数は書いていない。豊田市の標本が少ないといっても、他市との違いは少なく、豊橋市は海辺があることで多いであろうが、海辺を持たない瀬戸市や新城市の数値に近いものになるろう。安城市は山地がほとんどないことにより絶滅危惧種は少ないのは納得できる。稲武地区は現在豊田市であるから、近い種数であるが、稲武地区の採集標本は小林元男氏のもとにあるから、豊田市にはない。ほかに未整理の標本があるので近づく数値になるろう。

市内の絶滅危惧種には地誌的に見て過去から存在する種が多いのが特徴である。その一つが東海丘陵要素植物である。

(1) 東海丘陵要素植物

豊田市の絶滅危惧種の中には東海丘陵要素植物が多く含まれている。その自生地は地質的に東海層群が堆積した場所にできた湿地である。湿地・湿原といえば尾瀬ヶ原（約 8,690ha）を思い出す。これと比べ、1 坪（3.3m²）程度の広さから、せいぜい 1ha の小湿地が豊田市（約 90 か所、地図：豊田の湿地 2007 年 3 月）をはじめ東海地方に多数ある。

市内ではトヨタの森付近、野見山が南端で、矢並湿地、上高湿地、恩真寺湿地を含めたラムサール条約登録の東海丘陵湧水湿地群等が有名な湿地である。北部へは藤岡地区にあるため池上流部の湿地、白川町や三箇町北部山地のため池上流部湿地群、それに小原地区北部林道沿い湿地へと続く。それに、挙母西部（白山・太平町）の湿地群や国道 155 号線沿いの保見地区の湿地群に繋がり、南部地区から北部地区まで存在する多数の湿地が東海丘陵要素植物の自生する湿地である。多い理由の一つは、特に旧豊田市の市街地を取り巻く台地や藤岡地区の台地には、堆積した砂礫層があり、不透水の粘土層を砂礫が挿むので、粘土層の上部から砂礫にしみ込んだ水が湧き出す。そこに湿地ができ、凹地にため池ができ、このため池の上流部にも湿地ができた。それを湧水湿地と言う。

ため池の存在は、豊田市が東限で、西日本に多く、瀬戸内海地方や奈良盆地が気候の関係で特出している。また県内では知多半島や尾張地方東部に多くあったが人為的な行為でなくなった。

矢並湿地は砂礫地の堆積した湿地ではなく、花崗岩の風化した土砂の堆積した湿地であるが、東海丘陵要素植物群の貴重なシラタマホシクサ、ミカワシオガマ、トウカイコモウセンゴケ等が生育するので、ラムサール登録後の人気があり身近で観察できるよい場所である。矢並湿地は、多分過去に、上部か付近に東海丘陵地の砂礫層が存在していたことで東海丘陵要素植物群が生育できたものであろう。

湿地は、酸性度が高く、貧栄養な土地であるから、樹木の侵入が少なく、この地に適したモウセンゴケ類等の食虫植物等の小さい湿性植物や小型の生物等しか生育できない場所である。東海丘陵要素植物群は次の表 V-5 のとおりである。

表 V-5 東海丘陵要素植物群（豊田市自生）

●豊田市自生

科	種	愛知県 RDB	環境省 RDB	
ハマウツボ	ミカワシオガマ	EN	VU	地域固有種
タヌキモ	ヒメミミカキグサ	EN	EN	地域固有種
モクレン	シデコブシ	VU	NT	地域固有種
ホシクサ	シラタマホシクサ	VU	VU	地域固有種
シュロソウ	ミカワバイケイソウ	EN	VU	地域固有種
メギ	ヘビノボラズ	NT	—	準固有種
モウセンゴケ	トウカイコモウセンゴケ	—	—	準固有種
ハイノキ	クロミノニシゴリ	—	—	準固有種
イネ	ウンヌケ	NT	VU	大陸要素の遺存分布
ブナ	フモトミズナラ	NT		冷温帯系の遺存種
カバノキ	サクラバハンノキ		NT	準固有種

●その他（豊田市自生で東海丘陵要素に近いもの）

科	種	愛知県 RDB	環境省 RDB	
カエデ	ハナノキ	CR	VU	地域固有種

●豊田市には自生しない東海丘陵要素植物

科	種	愛知県 RDB	環境省 RDB	
バラ	マメナシ（イヌナシ）	CR	EN	大陸要素の遺存分布
モウセンゴケ	ナガバノイシモチソウ	CR	VU	熱帯系の遺存種
モクセイ	ヒトツバタゴ	EN	VU	大陸要素の遺存分布
ツツジ	ナガボナツハゼ	CR	CR	

* CR：絶滅危惧種 IA 類，EN：絶滅危惧種 IB 類，VU：絶滅危惧 II 類，NT：準絶滅危惧

地質的に東海湖が紀元前 700 万年の新第 3 紀中新世にでき、更新世前期後半 150 万年前まで現在の伊勢湾北部付近を移動しながら存在していて、この湖へ流れ込む河川の土砂が湖岸に堆積して東海丘陵地ができた。その堆積地が、東海三県の愛知県・岐阜県南部・三重県・静岡県西部に広く分布しているのである。

表 V-5 のように市内にはミカワシオガマ等 11 種がこの群に入り、ハナノキや市外の種は特殊な種であるから、東海丘陵要素植物群に入れるのは無理であろう。

ハナノキは元気村には 5 本の太木と自生の幼木が多く見られ、小原地区にも自生が発見できた。藤岡地区の加茂丘高校西の湿地にあったが、高校の植栽種の種が飛散したものと分かる。愛知県の木であり各地に植えられているが中にはアメリカハナノキも植えてあるから気をつけたい。ハナノキは岐阜県に多く自生しているがもともと北半球の周極植物の一つである。

この中の 3 つの種について自生分布を記す。

ア シデコブシ（モクレン科）

Magnolia stellate (Siebold et Zucc.) Maxim.

東海丘陵要素植物の一つで、東海三県の湿地に見られる湿地性の植物である。

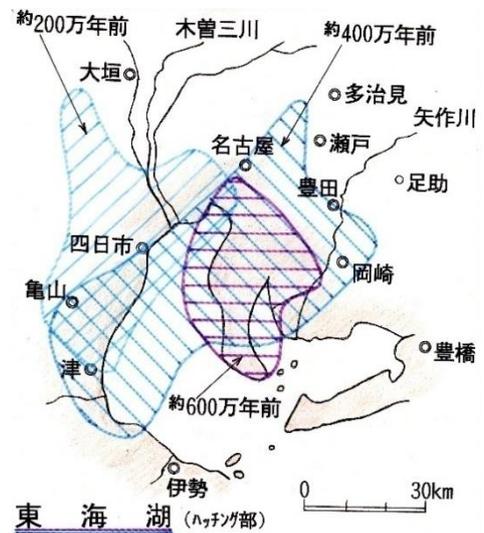


図 V-52 東海湖の移動
（日本の地質 5「中部地方 II」に加筆）

3月末～4月初めにかけて国道153号線勘八ダム湖の対岸やすぐ上流の鎮平橋からの対岸に白ピンク色の花が望まれ、「何という花ですか」とよく聞かれる。これが「海上の森」で問題になったシデコブシであるという、豊田市にもシデコブシがあるのかとびっくりされる。

シデコブシはモクレン科で、モクレン・コブシ等の花とよく似ており、咲く時期も同じで3月下旬～4月上旬サクラのソメイヨシノが咲く頃である。シデコブシとコブシはよく似ているが、シデコブシの花弁は淡紅色か紅色を帯びた白色で、萼片が花弁になり12～18枚、ときに25枚もある。コブシは白色の六枚の花弁があり、県内には自生がなく植栽されている。和名シデコブシ（四手拳）のシデ

（四手）は細長い花弁を玉串やしめ縄に付ける四手（しで）に見立て、コブシ（拳）は実のゴツゴツしたようすから付けられたものである。なぜシデコブシが問題なのであろうか。それは東海三県だけに自生する絶滅が心配されている東海丘陵要素植物だからである。シデコブシを上記の表のように愛知県では絶滅危惧種II類（VU）、環境省は準絶滅危惧（NT）に指定し保護を呼びかけている貴重種である。

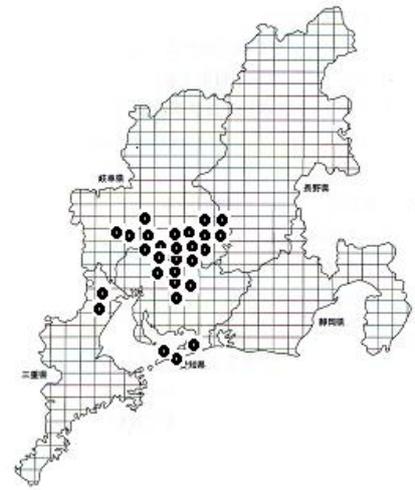


図 V-53 シデコブシの東海地方の分布
(熊谷尚久氏の作図に加筆)



写真 V-351 シデコブシ
愛知県（VU）、環境省（NT）



写真 V-352 シデコブシ

県内では、1970年に国指定天然記念物の渥美半島の湿地から岡崎市東部の一部、豊田市、瀬戸市、春日井市、名古屋市、犬山市の各小さな湿地に自生する。岐阜県では東濃地方で大規模な面積で分布し、三重県は四日市の北部地区にも存在する。分布図 V-37 参照。

豊田市では分布図のように、勘八ダム湖以外の見学場所は、野見山への登山路脇の湿地で、直径30cmほどの大木が数本見られ花はみごとであったが、近頃周囲の樹木で日陰になり花が少なくなってきた。入り難い場所だが

2001年度に県指定天然記念物になった琴平町の豊玄池奥の「シデコブシ自生地」の湿地では、約150株（730本）ほどのシデコブシの大小株立ちした群落があり、豊玄池を通して見るには静かで絶好な場所である。御船町御船川沿いの「琴平町シラヒゲソウ自生地」（市指定天然記念物）の

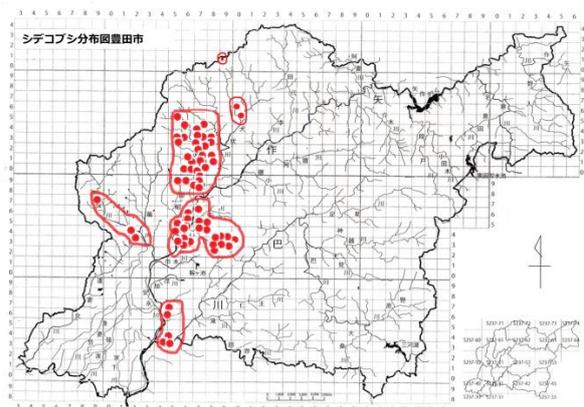


図 V-54 豊田市のシデコブシの分布
(豊田市河川図に加筆)

内部や周囲にも多くのシデコブシが自家用車からでも見られる身近な観察地である。これらを含め旧豊田市内には、13 町内の山間の丘陵地等約 45 か所に約 650 株があることを現在確認している。今回、旧町村の調査で、藤岡地区に膨大な湿地群が見つかり、それも人目につかないような場所に見られるので、地元の方にもあまり知られていない。木瀬町・藤岡飯野町を始め、藤岡地区では中心部の 9 町の 36 か所の湿地で生育している。特に加茂丘高校と藤岡町中学校とアイシン化工のフェンスが囲む湿地群や昭和の森近辺の湿地群に多い。



写真 V-353 琴平町豊玄池上流部
「琴平町シデコブシ自生地」
県指定天然記念物

小原地区には 47 豪雨（1972）以前には大平町の谷間に自生地があったと小原植物誌にあるが、豪雨で流されて無くなってしまった。以降 2013 年に幼苗が見られたが、それも採掘されてなくなった。しかし、同じ頃大平町北部林道沿いの「柿の道池」の下流に数十本発見され、町内の有志で管理されている。スギ・ヒノキの植栽地で、今までは下草刈りで刈り取っていたという。

市内や東海三県のこれらの場所は、広くは伊勢湾周辺であり、今から約 600 万年前の地質時代の鮮新世にあった低地の湖や内海の岸に当たる場所であり、このような場所に生えていた遺存種で化石も出ている。

当時、矢作川はまだなく、木曾川のような川がそれぞれの時代に従い湖に流れ込み、犬山市等に見られるチャートが風化した硬い礫も湖岸に堆積した。その後、約 250 万年～5 万年前にかけ猿投山や三河高原の花崗岩の山地が隆起すると、矢作川等が流れ出し、花崗岩が風化した土砂を流し、低地の湖や内海も小さくなり、堆積した礫層も流され、その流された礫が谷間に堆積した場所ができた。このように礫の堆積場所は新旧両方があり、どちらもその堆積した礫の下に不透水の粘土層ができ、湧き水が表面を流れる湧水湿地ができ、そこに東海地区独特の植物（東海丘陵要素植物）の 1 つシデコブシが生育しているのである。

シデコブシの種は鳥に運ばれ（種ではあまり繁殖できない）今ではチャート礫の堆積場所以外でも花崗岩の風化した砂礫や泥の堆積した泥沢湿地にも生育している。このような場所は底には固い花崗岩があるため、根が浅く横に張り出した株や曲がった枝が多く見られる。シデコブシの自生地は、このように何時も水が表面を流れている湧水湿地や泥沢湿地であるから水源である背後地がなくなれば枯れ、また明るい場所を好むので竹や常緑樹が生えれば枯れる。貴重なシデコブシを含め東海丘陵要素植物は市内をはじめ東海地方にはもっと多く自生していたはずが、湿地の埋め立てや山地の取り崩しで減少しているのである。人間との共生を考慮し、いつまでも生育するよう見守っていきたい。

イ ミカワシオガマ（ハマウツボ科）

Pedicularis resupinata L. var. *microphylla* Honda

矢並湿地の公開日の 10 月上旬に星のような真っ白なシラタマホシクサに混生して見事な紅白の競演に感激される方は多いであろう。愛知県の分布は、過去、犬山市、岡崎市北部、幸田町、武豊市、西尾市、日進市、みよし市に記録があるが、工事や採取でなくなった。豊橋市、瀬戸市、尾張旭市にもあるというが、最大の自生地は豊田市だけであり、豊田市の存在は重いといえる。矢作川を挟んで、東西に分布し、東側は、矢並湿地・恩真寺湿地・上高湿地の東海丘陵湧水湿地

群すなわち、ラムサール条約登録湿地に存在する。その他山中町の湿地群に自生する。西側は挙母西部地区の太平・貞宝・白山町等の湿地群に自生地があり、今のところ個体数も密である。

豊田市の西に接するみよし市には、かつては湿地が多く、大群落が見られたが、上記のように宅地造成で姿を消してしまったのは残念である。

今回の調査で小原地区にも自生地が偶然にも発見できた。小原地区の北部山地、林道沿いのスギ・ヒノキを伐採してできた新しい湿地に、種が長年の眠りから覚めたという現象である。一山向かいの岐阜県側には多いので納得できる。

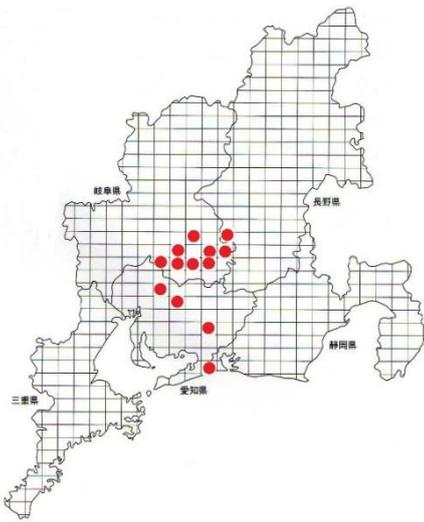


図 V-55 ミカワシオガマの分布
(熊谷氏の図に加筆)



写真 V-354 ミカワシオガマ

ウ シラタマホシクサ (ホシクサ科)

Eriocaulon nudicuspe Maxim

牧野図鑑によれば、伊勢湾と三河湾に面した本州中部地方の水辺に生える一年生草本であるという。しかし、かつて豊田市においては、平地の至るところの湿地や田の畦に自生していて、子供の時期、採取して赤い梅酢で染色し室内を飾り、腕輪や首飾り等にした記憶があると古老は話す。年を経て、これが東海地方の固有種と聞き驚きを覚えたという。そんな湿地や畦もほとんど潰され、今ではごくわずかに山地の一部に点在するだけであるのは寂しい限りである。県内では、渥美地方、豊橋東部、本宮山麓と西三河の本市から西に生育する。



写真 V-355 シラタマホシクサ

旧豊田市の自生地は、西部地方に傾き、挙母西部地区貞宝町や保見地区八草町が多く、東側は上高町湿地と矢並湿地まであり、峰一つ東の恩真寺湿地や南山湿地群までには至っていない。新市域では藤岡地区の昭和の森の県道沿いや北口の山麓、深見町湿地群、藤岡飯野町の藤岡中学校南の湿地に存在する。



図 V-56 シラタマホシクサの分布
(熊谷氏の図に加筆)

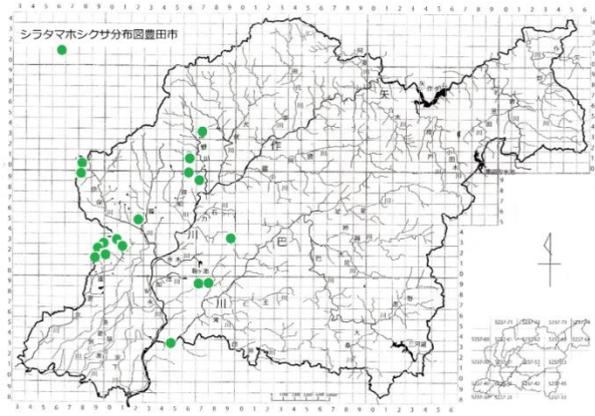


図 V-57 シラタマホシクサの分布
(豊田市河川図に加筆)

10 外来種

本来日本には自生しなかった植物が、外国との貿易等を通じて多数入ってきた植物を外来種と称している。ここでは外来種として扱っていく。ヒメジョオン、ハルジオン、セイヨウタンポポ、オランダミミナグサ等や花粉症のもととして騒がれたセイタカアワダチソウ等が外来種である。セイタカアワダチソウは空き地を一面の黄色な草地に変えているが山地には侵入できなく、ススキには弱く空き地以外には侵入していないのが救いである。

平地の草は7割ぐらいが外来種であることは、各地の植生調査で記したとおりである。外来種でも、急速に分布を広めているのがオオキンケイギク、オオハンゴンソウ等で、特定外来生物として法律で輸入や移動を禁止している種がある。本市での外来種は次の表のようで、県内の他市と比較した。

表 V-6 愛知県内の市の外来種数と帰化率（標本に基づいた外来種数）

区分	面積 (km ²)	植物種数	外来種数	帰化率
豊田市	919	1,265	186	14.7
(市内稲武地区)	99	1,484	129	8.7
安城市	86	842	191	22.7
蒲郡市	57	1,139	180	15.8
新城市	118	1,508	155	10.3
豊橋市	261	1,650	222	13.5
瀬戸市	112	1,655	182	11.0
愛知県	51,540	2,200	380	17.3

*外来種は帰化植物とも称している

*外来種率という言葉を使っていないので帰化率を使う

*帰化率＝外来種数÷全植物種数（植栽種・逸出種を除去）×100

*外来種には植栽種や野生逸出種は入っていない

安城市は三河平野の中心地であるから多いのは納得できるし、蒲郡市、豊橋市は海岸線を持つことで帰化率が高いのもうなずける。山地が多く海岸線を持たない瀬戸市や新城市に近い本市が多いのは、面積的に広く交通網が発達し流通が激しい本市の事情を示している。稲武地区は山地であるから少ないのも当然であろう。



写真 V-356 オオキンケイギク



写真 V-357 セイカタアワダチソウ

(1) 特定外来生物

外来生物法で栽培や移動が禁止されている植物には次のような種がある。

栽培はもとより、保管、移譲、輸入、野外への放棄は原則的に禁止されている。

外来生物法上の特定外来生物
植物編のリスト

オオキンケイギク、ミズヒマワリ、
オオハンゴンソウ、ナルトサワギク、
オオカワジシャ、ナガエツルノゲイトウ、
ブラジルチドメグサ、アレチウリ、
オオフサモ、スバルティナ・アングリカ、
ボタンウキクサ、アゾラ・クリスタータ
の12種

図 V-58 特定外来生物（植物）



写真 V-358 オオキンケイギク
河川改良工事で導入されたオオキンケイギク。根絶は根ごと引き抜く必要がある。過去には園芸種として種子が販売されていた。

市内の特定外来生物は次の5種である。

オオキンケイギク、オオハンゴンソウ、アレチウリ、オオフサモ、ボタンウキクサ

オオハンゴンソウ（キク科）は稲武地区の野入町に入る国道153号線沿いによく見かけるし、山中町の湿地内には大群落を作っているが、ここでは道路沿いには進出していないのは幸いである。オオフサモ（アリノトウグサ科）とボタンウキクサ（サトイモ科）は養殖魚とともに進出した種であるから池や河川に大繁茂している。アレチウリ（ウリ科）は河川敷に大繁茂しほかの草木に巻き覆っている。輸入大豆に混入して侵入したようだ。

(2) 生態系被害防止外来種リストに選定されている種

外来生物法に基づいた規制のかかる特定外来生物以外の外来種で、要注意外来生物や外来生物法の規制対象とならない国内由来の外来種等への対策の必要性の高まりから、2015年3月「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（生態系被害防止外来種リスト）」が作成された。これは、生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼす又はその恐れがあるものを生態的特性及び社会的状況も踏まえて選定した外来種のリストである。

本リストでは、ヒメジョオン、セイヨウタンポポ（外来性タンポポ種群）、ホテイアオイ、普通の土地に見られるオニウシノケグサ、メリケンカルカヤ等多くの種が選定されている。利用する場合は、種子等の逸出を防止するといった配慮が必要とされている種であるから注意したい。できれば焼却したいものである。

1 1 植物保護について

今回の調査で、市内には1,200余種の多数の植物が生息していることが分かったが、文献上での数値とは大きく違い、絶滅が心配される。長年、人為的な環境破壊行為によって生物多様性の環境が大きく改変されることが生物の減少を早めた要因である。

開発で植生地がなくなり、盗掘・採掘で本体の植物がなくなる。また植林地の拡大と間伐の遅れで植物種がなくなり、竹林、里山の荒廃、ため池の放置が追い打ちをしていることで植物が姿を消している。

(1) 植林地の間伐

豊田市には多数の植林地があり、スギ・ヒノキが植えられているが、長年間伐されないために林内が暗く、日光が差さず荒れて、根元の土砂が流れ根元が高くなっている。これは保水力がなくなっている状態で洪水を引き起こす要因にもなっている。現在間伐を進めているであろうが容易なことではない。間伐をされた植林地には下草が生え植生が戻っている場所が、あちらこちらで少しずつ見られるようになってきた。

(2) 竹林の伐採

竹類の需要が高まり、植竹を大々的に進めたのが昭和の初め頃で、スギ・ヒノキに適さないサバ土の山地や河川の護岸用にと植竹が広まっていった。しかし、1965年頃から竹製品がプラスチック製品に代わり竹の需要がなくなると竹林は放置され、荒れ放題で中に入れないうちになってきていた。近頃、各地で竹林の伐採が始まっている、中でも矢作川のスタジアム周辺1km近くでは竹林を伐採したため、もともとの樹木の元には下草が生え、ニリンソウ、ウラシマソウ、ヒガンバナ等が見られるようになり、また同じような活動が越戸水辺公園、小渡町の竹林整備等で行われ自然が徐々に回復しつつあり、生物の多様性もどおりつつある。

(3) 里山の回復

里山は人と自然との関わりの深かった場所で、谷間には段々田が連なり、山裾の樹木は、薪炭に切られ、草は田の肥料用に刈られ、日陰を少なくしたので明るく多くの草花が見られた。山地の木々は約10年目ごとに伐採され、萌芽を多く出し、緑を豊かにしていた。草刈りは鎌であり、ササユリ等の野草は残すことができたのに、今日では草刈り機で一気に刈るので里山の植物は姿を消してしまった。田の畦には春にはハルリンドウ、モウセンゴケ、タンポポ、スマレが咲き、夏にはササユリ、コオニユリ、サワギキョウ等、秋にはリンドウ、オミナエシ、ウメバチソウ、アケボノソウ等の花々が咲く里山が復活して欲しいものである。

(4) 採掘・盗掘の禁止

野草ブームは大分下火になってきたとは言え、一つごとに専門にあさるマニアや家庭山草園をつくる者が少なからず存在し、珍しいラン植物はすぐに消えてしまう。ただし、希少種を公表し地域住民が見守ることも重要であるから、保護団体を育成し地域住民で保護管理、監視することが必要である。

(5) ため池と付近の湿地保護

市内には、東海丘陵要素植物が生育する湿地をはじめ、100余の湿地があることは、地域別の調査報告書に記載のとおりで、生物の多様性が保たれている重要な場所である。今回調査した場所にも重要な植物が生育している湿地が多くあった。これら多数の湿地は、規模が小さく、年々遷移が進み、乾燥化し山林地に戻ってしまう運命にある。そのため東海地方だけにしか生育しない東海丘陵要素植物等の貴重な植物や生物が生育する湿地への土砂流入、木本植物の湿地への進入で狭められ、希少種の存在が危うくなっている。中には荒れ果てて、下草刈り等でシデコブシ等が伐採されていた湿地も見られた。

それに、ため池の拡張工事で、三面張りの護岸が施工され、愛知用水や矢作川用水が導入され、日本古来の水生植物や水中生物等が生存できなくなり絶滅した場所もある。また、農業用水路整備等でため池の必要性がなくなり、ため池の放置・崩壊で貯水がなくなり、水辺の砂地に生育するモウセンゴケやハッチョウトンボ等の弱小な生物が生育できなくなった場所も見られる。

ラムサール条約登録の湿地ということで、湿地の重要性が再認識され各地に湿地保護団体ができ、活動されているが、まだ、保護団体を作り活動していく必要のある湿地が多くある。

ア 伊勢神湿地の保護保全

旧いこいの村愛知の閉館に伴い、管理が行き届いていない状態であり、木道にかかる樹木の伐採、葉の掃除、木の排除等の整備が必要である。内部のバラ類、イヌツゲ等の繁茂が、湿地内の見通しを悪くし、貴重な植物（タニヘゴ、バイケイソウ、オタカラコウ類）の生育を脅かし、モウセンゴケ等弱小な植物が見当たらない状態である。タカドヤ湿地のように、地元が主体となった管理・保護活動が行われることを望む。



写真 V-359 モリアオガエルの産卵塊



写真 V-360 ギンリョウソウ



写真 V-361 タニヘゴ



写真 V-362 ヤブデマリ

イ 浄水町の国道 155 号線沿い湿地の保護

国道 155 号線沿いには、湿地がまだ残されているが、乾燥化、人の出入り等で消滅寸前である。伊保原自治区の南の斜面には、貴重な東海丘陵要素植物が生育している湿地があり、付近の住民が保全のボランティア活動をしていた。個人の活動のため、現在は放置され湿地の存在が危うい。矢並湿地保全活動のような地元のグループの活動が望まれる。

ウ 豊田市挙母地区西部湿地の保全

挙母地区の西部には、シラタマホシクサやガガブタ等貴重な植物が生育する湿地やため池が点在する。しかし場所によっては分譲地となりその開発が心配される。また、過去にあったため池が崩壊し、アンペライが繁茂し池の周辺の湿地がなくなったため池もある。湿地がなくなる以前のため池には貯水があり、1965（昭和 30）年代には、ため池上上流部にはすばらしい湿地が存在した。この地区は大池町、白山町、大平町等を含み、逢妻女川の唯一残された源流地であり、広範囲な挙母地区西部緑地帯として保全されることを願う。

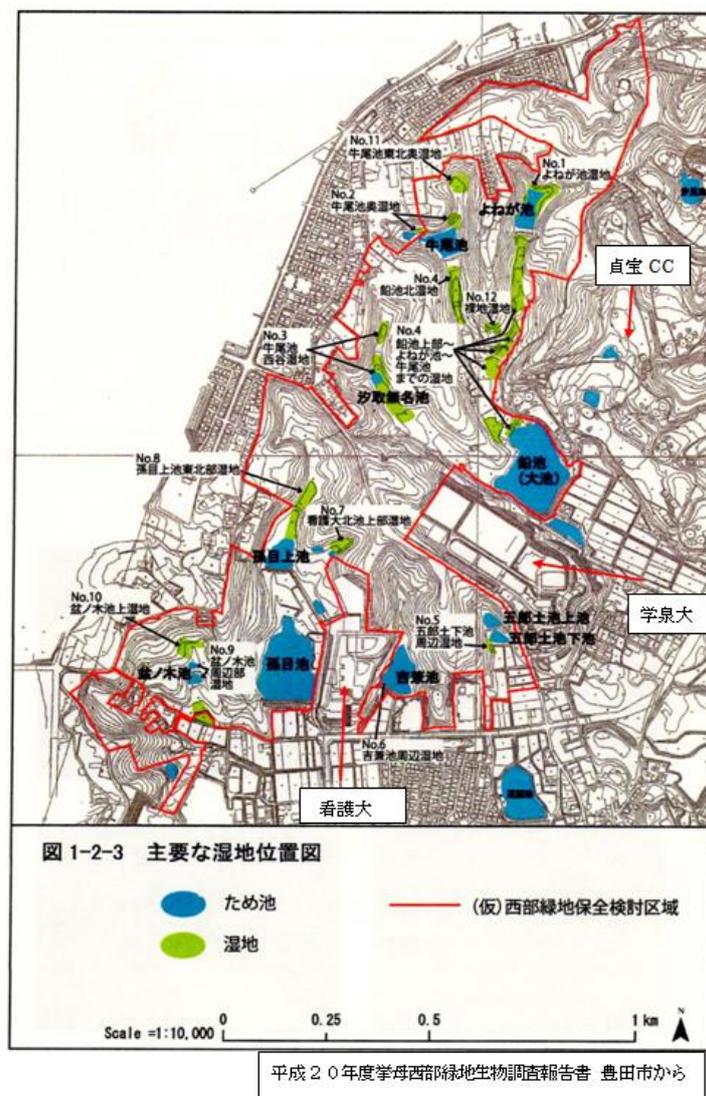


図 V-59 挙母地区西部湿地群

保護・管理は予算だけ付ければ済む問題ではなく、地域住民の自然環境を守ろうという意識改革が必要であるが容易ではない。自然の恩恵を受けて周辺の自然には気づかず長年住んでいた住民であれば余計に無関心である、

それには、矢並湿地等のラムサール条約登録で多少刺激になったことであろうし、それに希少種が存在することを知らせることも必要である。「レッドデータブック」(2000 環境庁)、「レッドデータブック植物編」(2009 年度)、「レッドリストあいち 2015」(2015 環境部)等に記載の植物が身近にあることも知らせる必要があるだろう。

1 2 謝辞

本調査にご協力いただいた各方面の方々に感謝致したい。豊田植物友の会会員，豊田名木愛護会のみなさま方，豊田市史編さん室の西部めぐみ氏，豊田市各地区支所，各交流館の方々に感謝したい。

何よりも調査員のみなさま方には，長年，四季折々に山野に足を踏み入れ心身の疲れも忘れ，面的な調査をしていただきありがとうございます。途中病気で亡くなられた旭・稲武地区の調査員渡邊昌代氏は，御夫婦で調査をしておられ，意思を夫の渡邊仁司氏に引き継がれたが，何かと調査の完了を待ち焦がれていた一人であったと悔やまれ心が痛む。また，小林廣成氏には調査を初めて2年後，持病が悪化し，足の切断手術ということで調査ができなく，治療に専念されていたが，この頃は重体とお聞きしている。調査の中心人物として活躍されていたのに悔やまれる。彼の代わりに脇田 治氏にも1年余と一緒に調査されたが，彼も突然の病で，治療に専念ということになった。彼の撮影の腕前は抜群で，きれいな精密な花写真や生態写真は素人離れしている。療養を続けられているので復帰を期待している。

○ 執筆・調査員と担当地区

総括、執筆： 鈴木勝己；豊田市全般，藤岡地区，小原地区
執筆： 渡邊仁司；旭地区，稲武地区
執筆： 岡田慶範；足助地区，下山地区
調査員： 鈴木勝己，山原勇雄，山本博美，脇田 治，小林廣成
；藤岡地区，小原地区
： 岡田慶範，長谷川伸岳，三津井 宏，渡部教行
；足助地区，下山地区
： 落合鈴枝，山田 弘，渡邊仁司，渡邊昌代（故人）
；旭地区，稲武地区

1 3 参考文献

- 阿部正敏 (1996) 葉によるシダの検索図鑑. 誠文堂新光社. 211pp.
- 愛知県環境部 (2015) 第三次レッドリスト レッドリストあいち 2015. 愛知県.
http://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/yasei/redlist/redlist_2015.pdf
- 愛知県環境調査センター (2001) 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち植物編. 愛知県. 759pp.
- 愛知県環境調査センター (2001) 絶滅のおそれのある愛知県の野生生物 レッドデータブックあいち 2009 概要. 愛知県. 50pp.
- 愛知教育大学生物学教室 (1992) 愛知県および岐阜県東濃地方の丘陵・低山地における湿地性植物の現状. 愛知教育大学植物標本室報告, 1: 166.
- 安城市史編纂委員会 (2005) 新編安城市史 11 第 4 章植物 資料編自然. 安城市. 460pp.
- 藤岡町誌編纂委員会 (2008) 藤岡 20 世紀のあゆみ. 豊田市. 763pp.
- 岐阜県博物館 (1993) 特別展 失れゆく植物. 63pp.
- 林 弥榮・平野隆久 (2000) 山溪ハンディ図鑑 1 野に咲く花. 山と溪谷社. 623pp.
- 星野貞二・正木智美・西本真理子 (2002) 岡山県スゲ属植物図鑑. 山陽新聞社. 229pp.
- 星野貞二・正木智美・西本真理子 (2003) 岡山県カヤツリグサ科植物図鑑. 山陽新聞社. 229pp.
- いがりまさし (1996) 山溪ハンディ図鑑 6 日本のスミレ. 山と溪谷社. 247pp.
- 池田怜伸 (2008) 写真でわかるシダ図鑑. トンボ出版. 151pp.
- 勝山輝男 (2005) ネイチャーガイド 日本のスゲ. 文一総合出版. 375pp.
- 緊急保護野生動植物調査会 (1996) 緊急保護野生動植物調査報告書. 豊田市. 93pp.
- 小林元男 (2006) 北設楽の植物. 愛知県新城設楽農林水産事務所. 282pp.
- 小林元男 (2014) 愛知県樹木誌. 自費出版. 622pp.
- 小林元男・堀田喜久 (2001) 安城の植物 安城市の貴重な草花. 安城市. 84pp.
- 熊谷尚久 (1998) 三河の植物. 自費出版. 215pp.
- 熊谷尚久 (2009) 周名古屋・伊勢湾の固有植物. 自費出版. 71pp.
- 邑田 仁 (2011) 日本のテンナンショウ. 北隆館. 265pp.
- 倉内一二 (1984) 緑をはかる 植生調査入門 (基礎講座). 環境, 28: 18~27
- 三重県環境森林部自然環境室 (2005) 三重愛知県レッドデータブック 2005 植物・キノコ. 財団法人三重県環境保全事業団. 534pp.
- 茂木 透・高橋秀男・勝山輝男・石井英美・太田和夫・城川四郎・崎尾 均・中川重年・吉山 寛 (2000) 山溪ハンディ図鑑 3 樹に咲く花 (離弁花①). 山と溪谷社. 719pp.
- 茂木 透・高橋秀男・勝山輝男・石井英美・太田和夫・城川四郎・崎尾 均・中川重年・吉山 寛 (2001a) 山溪ハンディ図鑑 4 樹に咲く花 (離弁花②). 山と溪谷社. 719pp.
- 茂木 透・高橋秀男・勝山輝男・石井英美・太田和夫・城川四郎・崎尾 均・中川重年・吉山 寛 (2001b) 山溪ハンディ図鑑 5 樹に咲く花 (合弁花・単子葉・裸子植物). 山と溪谷社. 719pp.
- 長田武正 (1989) 日本イネ科植物図鑑. 平凡社. 759pp.
- 永田芳男・畦上能力 (2000) 山溪ハンディ図鑑 2 野に咲く花. 山と溪谷社. 591pp.
- 名古屋市動植物実態調査検討会 (2004) 名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや 2004 植物編. 名古屋市. 324pp.
- 日本シデコブシを守る会 (1996) シデコブシの自生地. 日本シデコブシを守る会. 217pp.

- 財団法人日本野鳥の会編（2009）豊田の生き物たち 生物の多様性を知る．豊田市．247pp.
- 大場秀章（2011）植物分類表．アボック社．513pp.
- 岡田 博・植田邦彦・角野康郎（1998）植物の自然史 多様性の進化学．北海道大学図書刊行会．267pp.
- レッドデータブック近畿研究会（2001）改訂・近畿地方の保護上重要な植物 レッドデータブック 近畿 2001．平岡環境科学研究所．164pp.
- 芹沢俊介（1996）植物からのSOS 愛知の絶滅危惧植物．愛知県植物誌調査会．130pp.
- 清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七（2001）日本帰化植物写真図鑑．全国農村教育協会．553pp.
- 財団法人自然環境研究センター（2000）改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 植物Ⅰ（維管束）．環境庁．660pp.
- 鈴木勝己・成田 務・小笠原昇一（2005）Ⅲ植物．豊田市自然環境基礎調査報告書，豊田市自然環境基礎調査会：21-117．豊田市
- 高見林平・加藤 茂（1953～1972）小原村植物誌 1～24 巻．西加茂郡小原村教育者連盟現職教育委員会．
- 豊田市史編纂委員会（2011）新修豊田市史概要版 豊田市のあゆみ．豊田市．450pp.
- 塚本威彦・日比野修（2012）瀬戸市の植物．愛知県植物誌調査会．140pp.
- 植村修二・勝山輝男・清水矩宏・水田光雄・森田弘彦・廣田伸七・（2010）日本帰化植物写真図鑑（第2巻）．全国農村教育協会．579pp.